

「東京真田町の会」会報

日本タボス

令和元年(2019年) **12月21日**



《さようなら旧校舎・校舎全面改築をひかえて》 真田町立 真田中学校 H10.6.5 撮影

学び舎にわれらのおもかげをたずねて・・

ひばりおいしかの蛙 あしを外しかの畔溜 ひるね泥鰌に・・

空から見たわが町わが母校より（1998年航空写真の千曲カラー）

NO.

32

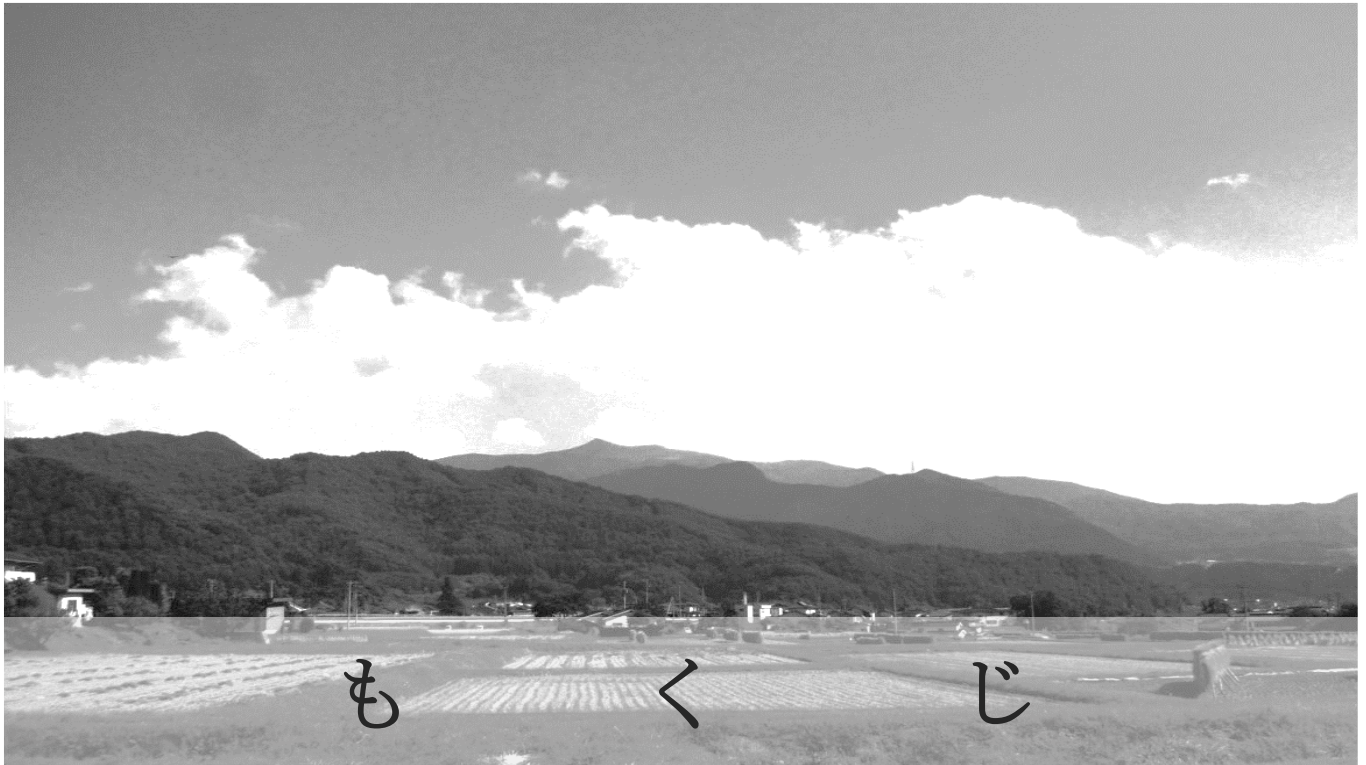
ふるさとと秋空に想う 土埃もうもうの道は、黄金のたんぼやヒバリは、草冠むりのくず屋根はどこへいった？盛りあげた草束に鋤挟んだ背負子を背にして月明りの道を手綱曳いていたっけ・・・そば伸しながら回想・・・



ふるさと旅のヒトコマ。前宣伝以上におもしろかった。やはり真田のご指南だけあって、技量がね・・・



左：菅平自然館の前庭にて。右：いつものように角間の山並を背にして夢工房の前で。来年もまた・・・



もくじ

一	表紙	学び舎にわれらのおもかげをたずねて・・・	編集部	一
二	ふるさとの秋空に想う		編集部	二
三	もくじ		編集部	三
四	ごあいさつ	会長 (田中出身)	金子 誠	四
五	上田市の更なる発展を目指して	上田市市長	土屋 陽一	五
六	令和の時代を迎えて	上田市議会議員	小林 隆利	六
七	人のつながりを感じる地域を目指して	真田地域自治センター長	山崎 完爾	七
八	台風十九号で真田町でも大きな被害	上田市議会議員	古市 順子	七
九	大きな被害に見舞われた故郷から	上田市議会議員	佐藤 論征	八
一〇	いつも通りの繋がりがこそが大切なこと	上田市議会議員	齊藤加代美	九
一一	最高の人生の見つけ方	上田市議会事務局長	金井 浩一	一〇
一二	食と農で地域に笑顔を	信州うえだ農業協同組合代表理事組合長	眞島 実	一一
一三	東京真田町の会会報発刊に寄せて	信州うえだ農業協同組合真田地区理事	北島 一博	一二
一四	金縄山実相院縁由記	天台宗金縄山実相院田村將軍祈願所開基	落合 寛如	一二
一五	我追憶	(中横道出身)	八木 五郎	一四
一六	第三十二回 総会および懇親会の報告	事務局長 (横尾出身)	神田 幸雄	一六
一七	各部の活動報告		担当理事	一九
一八	ふたつの詩	岩城まち歩き案内人の会	佐々木裕三	二二
一九	ふる里訪問でのひととき	(菅平出身)	岩崎みち子	二二
二〇	上田市特産地大根「うえだみどり大根」について	(菅平出身)	川上 年美	二四
二一	惨禍にあるふるさとへ義援の手を	会長 (田中出身)	吉田 範夫	二五
二二	ふるさと義援金に賛同された方々への御礼	事務局長 (横尾出身)	金子 誠	二七
二三	総会の返信欄へ会員の皆様から寄せられた近況	会長 (田中出身)	神田 幸雄	二七
二四	懐かしき学び舎のなままとのひと時	事務局長 (横尾出身)	金子 誠	二七
二五	平成三〇年度決算報告書	会計理事 (眞田出身)	坂口 典和	二八
二六	令和元年度事業計画・収支予算・役員名簿	(大日向出身)	柴田小夜子	三一
二七	お知らせなど・編集後記	事務局・編集部		三三
二八	三十二回 総会・懇親会の模様 (写真)	事務局・編集部		三三
		編集部		三四
				三五

いあいやく

会長 金子 誠 (傍陽田中)



皆さんお元気ですか。今年も残り僅かになりましたが、健やかに過ごしのことと拝察申し上げます。

昨年と同様に今夏もいたるところ猛暑といわれ、夏日も十月初旬までその尾を引きました。その後、心地よい秋風の漂う季節の到来か?と思いきや、大型(注1)で非常に強い(注2)台風十九号は十月十二日夜から関東および中部地方を暴風域にとりこみました。

これまでの記録を上回った降雨量は十三日未明にかけて東日本各地で河川の氾濫をもたらしました。各地からテレビ報道等で知らされた惨状へ、さらに真田町に住む親戚から聞いた情報も重ねました。さらに、入手した「上田市災害情報」によれば、同市は十二日十九時に警戒レベル四の「避難勧告」を発

令し、広域降雨で神川の水位が上昇に加え、菅平ダム水の放流せざるを得ない状況と重なり、下流域で氾濫危険水位を突破する危険を報じました。

この発令をうけた真田町では急遽避難することになり、長の六地域、および本原で三地域に住まいの方々は真田中学校と本原小学校に退避したようです。

また、同日二十時になされた警戒レベル四「避難勧告」の対象になったのは、土砂災害警戒区域及び特別警戒区域、および真田地区全ての自治会であり、菅平を含む長・傍陽・本原の七地域でした。

これらの発令による避難者総数は把握されておりません。また、一部の地域で停電・断水もあったようです(11月10日現在)。

道路等の損壊では、十二日荒井から真田地域自治センターに通じる県道長野真田線で、神川に架かる「四日市橋」たもとの護岸が崩れ同橋の通行は閉鎖されました。通行可能なところは本原傍陽線の落合橋と幸村橋です。

この台風禍で被災された真田地域の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

上田地域の千曲川流域における被災状況では、十二日二時四五分に千曲川の左岸堤防が崩れ、溢水したため「警戒レベル五」の災害

発生情報が発令されました。

上田地域の左岸側国分地域ほか被災地域の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

そのほか、別所線の上田駅と城下駅間で千曲川に架かる橋梁脚台が増水により崩落しました。同線で復旧の目途は立っていない状況です。

以上は知り得た十九号台風によるふるさとの被災概要です。

(注1)気象庁による台風の規模を表す指標には次の二つがあります。

その一つは、大きさを二段階であらわすもので、暴風の及ぶ範囲を階級であらわして、大型、および超大型の二つがあります。大型 とは風速15m/s以上の値となる半径の範囲が500kmから800km未満であるものを指します。

(注2)二つ目に強さの階級分けに、三段階(強い、非常に強い、猛烈な)があります。ここでの「非常に強い」とは最大風速が44m/s以上54m/s未満であるものを指します。

つぎに、この一年間に理事会で検討した会員名簿(以下名簿と略記)の整理について、その詳細をお知らせします。

○ 名簿の整理

会則(抜粋)を引用したあと、名簿の整理および作成の進行状況を説明します。

Ⅱ 会則抜粋 Ⅱ

目的の第二条は、「会員相互の親睦を図るとともに故郷(ふるさと)

との交流を深め相互の発展に寄与することを目的とする。」と掲げています。

これを達成するため次の事業を行う。

- (1) 会報及び会員名簿の発行
- (2) 親睦会、講演会、懇親会等の開催
- (3) ふるさと訪問等必要な事業、と定めております。

Ⅱ Ⅱ

本会の設立当初、名簿は皆様方相互の親密さの絆となっていました。最初の発行は平成二年六月十六日に、二回目のそれは平成九年九月になされました。その後、平成十五年五月の発行になるものが最新版になっています。

最新版の発行からすでに十五年が経過しております。この間に個人情報保護法(平成二七年五月三〇日施行)が制定されたことで、名簿の使用範囲を理事のみに限定しています。

同法施行のあと、会員の方で振り込め詐欺等の危険を回避するために、返信時に使用する葉書の通信面を保護紙で覆って送信する方もあります。

このような背景を考慮して、理事会では名簿の作成にあたり、次の方針でまとめることとしました。すなわち、名簿の氏名欄には氏名と出身地名のみを、住所欄では

県・市名までを記載するに止める。町名、および番地は記載しない。さらに電話とファックス番号も記載しないことにしました。

会員の皆様で、ほかの会員方の住所等を知りたい、とご希望がある時には、事務局または会長にお問合せ下さるようお願いいたします。つぎに、この一年間に開催された諸行事と出席状況を紹介します。

○ 第三十二回総会・懇親会

五月十九日(日)、アルカディア市ヶ谷「穂高の間」で開催しました。詳細を本紙に掲載しております。

○ 日帰りの催事

四季めぐりの第四回を七月二一日(日)、都立神代植物公園とその周辺の散策で行いました。詳細を各部の活動報告でまとめています。

○ ふるさとイベント

これへの参加では桜の四月二十九日(月)、第三七回上田真田まつりとその式典に会長金子と事務局長神田が出席し来賓の皆様と交流の場をもちました。

八月三日(土)、第三五回真田まつり、および真田三大花火大会に会長金子、副会長柴田および同深町が出席し、来賓、役員及び地域の方々と交流し、連携の場を盛り上げました。

○ 在京ふるさと会

一〇月四日(金)、信州うえだ東京の集いは浅草ビューホテル四階

の大宴会場で開催されました。これには会長金子が出席し来賓、役員の皆様、及び会員方と交流するひと時を過ごしました。

十一月一日(日)、東京丸子会の総会・懇親会はアルカディア市ヶ谷五階「穂高の間」で開催されました。これに会長金子が出席し、交流の時を過ごしました。

春季および秋季の東京上田会との合同ゴルフコンペの詳細を、本誌各部の活動で報告しています。

○ ふるさと訪問親睦旅行

真田町内を一巡する旅を一〇月二七日(日)～二八日(月)に実施しました。

会員の高齢化により参加者が減少傾向にあるうえ、千葉県在住で急遽不参加とされた方もあって、参加者十名に留まりました。

一日目の集合場所はJR大宮駅近くで、小型バスで出発しました。両日とも好天に恵まれ、よき故郷の姿を目にしていまいりました。詳細を各部の活動報告にまとめています。

○ 会員数の推移を辿る

さて、ここで発足当時から現在までの会員数の推移をみて、本会の背景を概観してみましよう。

本会が発足する際には五三四名の賛同を得、そのときの会員の年齢層は四〇～七〇歳代でありました。その後も会員は徐々に増えた

時期があり、「およそ六〇〇名になった」との話も聞いております。

今日に至る三十一年の間、お亡くなりになった方や、ご高齢で退会された方が多くみられました。いっぽう、入会者は極めて少なく、現在の会員数は一五三名となっています。

○ 本会の「これから」

おわりに、もつとも重要な課題の、「これから」をジックリと腰を据えて議論を深め、方針を定めてゆきたいと考えております。

当会の運営の基本姿勢は「会員とともにある東京真田町の会」であります。その中で、会員相互の心のつながり、結びつきを大切にしそれを深めていくことこそが活動そのものであります。

そして、本会はふるさとに向けでは真田町、および上田市の最大の理解者として在り、内では「真田町、上田市と東京真田町の出身者を結ぶ心の架け橋」としての役割を果たしつつ、「会員になってよかった・」と感じて頂けるような魅力のある会を目指し、引き続き皆様からお知恵をいただき、鋭意努力したいと思っております。

今後とも理事および会員の皆様方のご支援とご協力を重ねてお願い申し上げます。

結びに、会員ならびにご家族皆様の益々のご健勝とご多幸を申し上げます。

げ、ご挨拶とさせていただきます。

上田市の更なる

発展を目指して

上田市長 土屋 陽一



東京真田町の会の皆様には、御健勝で御活躍のこととお喜び申し上げます。

本年は大型台風第一九号に伴う記録的な大雨と強風により、上田市内でも多くの被害が発生しました。東京真田町の会の皆様には、たいへん御心配をいただき、改めて御礼申し上げます。

真田地域では人的被害はなかったものの、国道・市道の路肩崩落や橋台の洗掘による落橋の恐れなどによる通行規制が発生し、市民生活に多くの影響が出たほか農業用水路などの農林施設への被害や、住宅の全壊、床上・床下浸水などの被害がありました。市としては被災者支援や市民生活に重要な道路

等インフラの一日も早い復旧に全力を尽くしておるところであります。今後も災害に強い安全・安心なまちづくりに努めてまいります。

一方、日本で初めて開催されたラグビーワールドカップにつきましては、十一月二日に南アフリカ優勝でその幕を閉じております。大会前の九月八日から十四日までの7日間、イタリア代表チームが菅平高原でトレーニングキャンプを行い、順調にメニューを消化しており、選手・スタッフからは、菅平高原でのキャンプが大変素晴らしいといった評価をいただくとともに、各種メディアがイタリア代表チームを積極的に取り上げ、菅平高原の名が国内外に広く発信されたと捉えております。

また、今夏は「サニアパーク菅平」がオープン二十周年を迎えたことから、記念事業の一環として八月三十一日～九月一日に「関東大学ラグビー」の開幕戦全8試合が開催され、16チームの熱戦を、2日間で延べ5,800人が観戦しております。これらの取組がスポーツ合宿の聖地、菅平高原の知名度の向上、ブランド力の強化に大いにつながったものと考えております。現在、国や地方を取り巻く状況は、大きな転換期を迎えています。少子高齢化・人口減少社会の到来は、地域の活力低下や担い手不足

などをもたらし、地域社会に大きな影響を与えるものと思われます。このような社会情勢の中で、上田市が持続的に発展するためには、改革すべきは改革し、また、これまでも市政の着実な歩みを支えてきた取り組みを生かし、継続すべきものは更に磨き上げ充実させるといった柔軟な再構築の視点に立った、まちづくりへの取り組みが重要と考えております。

皆様には、ふるさと上田市を温かく見守っていただき、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、東京真田町の会ですますの御発展と金子会長はじめ会員の皆様の御多幸を心から祈念し、会報「日本ダボス」に寄せるあいさつと致します。

令和の時代を迎えて

上田市議会議長 小林 隆利



本年五月に、東京真田町の会に

お招きいただきました折には、これまでと変わらぬご厚情を頂戴し、楽しいひとときを過ごさせていただきました。皆様の故郷に対する深い愛情に接し、感激するとともに心より感謝申し上げます。

ラグビーワールドカップが日本で開催された本年は、その大変な盛り上がりや日本代表チームの活躍が記憶に新しいところですが、上田市、とりわけラグビー合宿の聖地菅平高原を擁する真田地域にとりまして、特別な年であったことと思います。

昨年に引き続き今年もイタリア代表チームがワールドカップ本戦に向け菅平高原で事前キャンプを行い、我々市民も笑顔と拍手で選手たちを決戦の地へ送り出しました。菅平高原はスポーツの合宿地として国内の評価が高いことはもちろんですが、今回イタリア代表チームからの評価も高く、正に世界の菅平へと羽ばたくきっかけとなったものと思います。また、市民や子供たちとの交流は、イタリアに対する親しみやラグビーというスポーツへの理解を育み、大変有意義なものでした。

一方、十月の台風第十九号は各地に猛威を振るい、上田市においても大きな被害が発生いたしました。被害に遭われた皆様に対し、衷心よりお見舞い申し上げますと

もに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

議会におきましては、台風被害への対応を第一に考え、今年の議会報告会を中止することといたしました。大変残念なことでありましたが、議会報告会は議会の活動内容を市民の皆様にお知らせするとともに市民意見を把握する貴重な場であり、今後、今後の開催に向けて取り組んでまいります。

また、本年は、平成最後の年であるとともに、令和元年という節目の年でもありました。

貴会におかれましては、昭和六十二年九月の設立以降、平成元年から会報「日本ダボス」を発行され、本号で第三十二号を迎えられております。平成の時代を通して、会員相互の親睦と故郷との交流を重ねてこられましたことに敬意と感謝の意を表する次第です。

平成十八年に誕生しました新上田市も、十三年の歳月を重ねる中で目覚ましい発展を遂げてまいりました。しかしながら、地方を取り巻く社会経済情勢はめまぐるしく変化しており、人口減少社会への対応など課題は山積しております。上田市は更なる一歩を踏み出して、いかなければなりません。

二元代表制の一翼を担う議会と

いたしましても、市民と議会との意思疎通の充実に努め、市民の意見を市政に反映させ、市民の皆様 に期待される議会となるべく研鑽に努めてまいります。

今後も、東京真田町の会の皆様の故郷への変わらぬご支援をお願い申し上げますとともに、東京真田町の会の益々のご発展と会員の皆様のご多幸を心からご祈念申し上げます。

人のつながりを感じる 地域を目指して

真田地域自治センター長

山崎 完爾



東京真田町の会の皆様には、お健やかにお過ごしのこととお喜び申し上げます。

本年五月の総会には、四月に拝命いたしました真田地域自治センター長として参加をさせていただ

きました。皆様には温かくお迎えいただき、心より感謝申し上げます。

また、三十年以上の長きにわたる会の運営、発展のためご尽力賜りました役員の皆様並びに会員の皆様にも、改めて敬意を表するとともに、深く感謝申し上げる次第でございます。

さて、令和元年十月十二日に東京で猛威を振るった台風第十九号では真田地域にも大きな被害をもたらした。東京真田町の会の皆様にも、たいへん御心配をいただきました。改めて御礼申し上げます。

地域内では、渋沢川・神川を中心に住宅一戸の全壊、家屋等への床上・床下浸水の被害、土砂等流出による通行規制などの交通への影響もまた、突風による家屋・農作物等の被害が発生しました。しかしながら、台風発生時から多くの地域住民や自治会、団体職員、また行政職員も一丸となり、地域の復興復旧に努めてきました。地域の住民が助け合いながら地域を再生していく姿に、改めて真田地域の力強さを感じております。

一方明るい話題では、ラグビーワールドカップ日本大会の事前トレーニングのため、昨年に引き続き菅平高原にイタリア代表チームをお迎えしました。多くの地域住民の出迎えや公開練習の観戦など

地域の盛り上がりも非常に高まりました。また、そばパスタなどイタリアにちなんだフードメニューの開発、イタリアのチームカラーである青い幟旗による応援などで更に盛り上げ、菅平高原で調整した“青備え”の戦士たちを大会へお送りすることが出来ました。

近年切実な問題となっている「将来の人口減少社会の進展」を見据えた対策については、真田地域においても取り組みを進めております。その一つが住民が連携してまちづくりを行う新たな住民自治組織である「真田の郷まちづくり推進会議」です。現在、真田の郷まちづくり計画の策定に向けて協議が進められており、行政としても魅力あるまちづくりが進展するよう連携、支援に努めております。

会員の皆様には現況を御理解いただき、引き続きふるさとのまちづくりにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

台風十九号で真田町でも 大きな被害

上田市議会議員 古市 順子

さて、この原稿をばつぽつ書こうと思っていたところ、台風19号が襲来し、真田町でも大きな被害が発生しました。被害に遭われた皆さんに心からお見舞いを申し上げます。



真田町では10月21日現在で、住家の全壊、および床上浸水がそれぞれ1件、床下浸水が7件、風害54件が発生しております。全壊は、神川支流の渋沢川沿いで、上流に発生した土石流によるものと考えられています。神川の菅平ダムはほとんど空だったようですが、放流せざるを得ない状況となりこれが12日8時から行われました。沿岸の自治会には避難指示も出され、多くの方が真田中学校、本原小学校などに避難されました。あちこちで大きく護岸が削られ、流木も多く川の流れも変わった箇所もあります。県道長野真田線の四日市橋は崩落の危険があるということで通行止めです。隣の市道の四日市橋のたもとでも大きく崩落し通行

止め【写真①】10月19日、9時、戸沢橋も17日から通行止めとなっています。現在、通行可能な橋は幸村橋、本原傍陽線の落合橋、および長と戸沢間にかかる長生橋だけとなっています。

神川沿いに上小森林組合事務所と真田地域自治センターの駐車場があります。敷地が大きく削られ、このままだと事務所建物が流される恐れがあり、県に緊急対応が要請されていました。19日朝県議高村氏と私が現地調査に訪れた時はちょうど応急工事が始まるどころだったので、工事概要等を伺いました【写真②同日】。

停電が丸一日、丸二日など広範囲であり、断水も一部地域でありました。農業被害は、リンゴの落下が1、2割、倒木、渋沢川沿いでは流された畑もありましたが、まだ全容はわかりません。

神川が注ぎ込む有名な千曲川が、ご存じのとおりあちこちで越水、決壊しました。上田市でも国分地区での越水、また上田電鉄の鉄橋が左岸の堤防で崩落しました。私は上田橋近くの南天神町で高二まで住んでいましたが、60年前の伊勢湾台風で氾濫したことをよく覚えていますが、それ以来の大災害ですが、地球温暖化により、こういった台風発生も珍しくなくなる恐れもあるのではないのでしょうか。



② 上小森林組合事務所建屋と真田地域自治センターの駐車場脇が崩落



① 県道長野真田線の四日市橋脚の崩落

議員は地元待機ということ、自治会に開設された避難所回り、被害調査、要望の連絡等行いました。議会としても、市民意見を基に

した災害対策の課題等取りまとめを行い、今後に活かす予定です。向寒の折、会員の皆様にはご自愛くださいますように：またお会いできる日を楽しみにしております（10月21日）。

大きな被害に見舞われた

故郷から

上田市議会議員 佐藤 論征



東京真田町の会の皆様におかれましては、益々ご健勝、ご活躍のこととお喜び申し上げます。

本年も五月の総会にお招きをいただき誠にありがとうございました。令和の時代になっても、皆様の変わらぬ故郷への想いにふれ、故郷に住むものとして大変うれしく、皆様が想いをよせてくださる故郷をいつまでも大切に守っていかなくてはならないと思いを新たにいたしましたところでございます。

《広告欄》

(有) 上原重機

クレーン作業は懇切丁寧で定評のある上原重機
へご相談下さい

Rough terrain crane / TADANO

25t/10t/7t/5t

吊上げ：鉄骨・鉄筋・住宅・

庭園（庭石・植木）・その他一般

〒389-0505 東御市和 1086-1

TEL 0268-36-2369, FAX 0268-35-0502

上原重二・恵子(大日向出身) 氏一之瀬



Ⓢ 大久保木材合資会社

代表社員 大久保 陸男

(真田中学校第5期、大日向出身)

〒386-0152 長野県上田市大屋 44-1

TEL 0268-35-0128(代)、Fax 0268-35-0226

さて、報道等で皆様もご存じの通り、令和元年十月十二日に台風十九号が長野県に最接近し、長野県では初めて大雨・洪水警戒レベルで最高の5に相当する大雨特別警報が発表されました。上田市でも、恐怖を感じるほどの今までに経験のしたことがない豪雨となり、甚大な被害を齎しました。

真田地域でも、菅平ダムの水位が上昇し放流を行うほどの雨量となり、神川周辺を中心とした河川周辺での大きな被害、数日間渡る停電など、甚大な被害に見舞われました。真田地域に住むものとして、故郷が大きな被害を受けたことは、非常に辛いところではあります。が、いち早い復興に努めることはもとより、美しく、住みやすい真田地域を取り戻すため、地域一丸となって復興に取り組んでまい

る所存でございます。また、上田市は災害の少ない地域といわれており、地域住民もそのような認識を強くもっておりました。しかながら、災害はどこでも起こり得ることであり、これまで災害が起きる度に「想定外」という言葉が使われてまいりましたが、これからは「想定外」という言葉は使われてはならないと感じております。真

に災害の少ない地域・災害に強い地域を創るため議会人として、更に取り組みを強めてまいる所存でございます。

東京真田町の会の皆様が想いをよせてくださる故郷をより良い地域とし、皆様をこれまで通りお迎えできるよう地域の皆さんと手を携え頑張つてまいります。今回の総会では、皆様に復興を果たしたご報告をさせていただくことをお誓い申し上げます。

結びに、東京真田町の会の益々のご発展と会員の皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げ、第三十二号「日本ダボス」発行にあたりご挨拶とさせていただきます。

いつも通りの繋がり

こそが大切なこと

上田市議会議員

齊藤 加代美(旧姓倉島)



まず初めに、この度の台風19号

で、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

この度は、東京真田町の会の総会にお招きいただき、心から感謝とお礼を申し上げます。郷土を愛する皆様の温もりを、改めてたっぷり感じた素敵な時間でした。

私の出身は、真田町本原上原であり、今回も積極的に、真田を想う皆さんと再会を願い参加した総会でした。ちょうど同日、私の遊び場であった御屋敷公園で、「つつじ祭り」と「例大祭」が盛大に開催されました。そして、今年は三年に一回行われる皇太神社に三ツ頭獅子の舞が奉納され、旧上原区の仲間と父が復活させた獅子舞は私にとつては特別なものです。今回も三ツ頭獅子の奉納は、地域の皆さんの力が集結したすばらしい舞だったと、ご近所さんからお聞きしました。こういった伝統芸能や、お祭りを継承していくことは、働き方も変化した現代では大変な苦労があるかと思いますが、その継承こそが、地域のつながりを保てる、そして地域を守ることにつながる非常に大切なことなのだと、今回の災難から深く思いました。

台風19号では想像を絶する大災害となりましたが、この絆と繋がりが「命を守る」行動となり、避難所の真田中学校では、励まし合い、皆で一夜を過ごしたと聞いて

《広告欄》

東京真田町の会

顧問 小林 孝雄
(曲尾出身)

〒234-0051 神奈川県横浜市港南区日野 4-45-5
☎ 045-349-2084

信州◇戸倉上山田温泉

ホテル

圓山荘 玉の湯

〒389-0821

長野県千曲市上山田温泉 2-9-6

TEL 026-275-1119

FAX 026-275-1109

〒389-0821

長野県千曲市上山田温泉 1-74-11

TEL 026-261-0324

FAX 026-261-0325

信州・源泉掛け流し温泉宿

います。

また、上田市では、地域の郷土愛を育む、「信州上田学」に取り組みが始まりました。地域の歴史、文化、自然、風土、産業等を「学ぶ」ことで、住民が「住み続けたいと感じる地域づくり」、地域を離れて進学した学生が「ここに帰ってきたいと思う人づくり」を、幼保から進めています。嬉しいことに、真田町の「0歳〜4歳児」の人口は、5年前と比べると、0.5ポイントあがり、少子化対策が急務とされる課題の中、市内でこの年齢層に増加が認められているのは真田地域だけです。私たちにとって、とても誇らしいことです。

今回の災害から上田地域は、上信越高原と八ヶ岳中信高原国立公園に抱かれて、豊かな自然の中で私たちは、生かされ暮らしていること、自然の驚異も実感しました。こうやって東京真田町の会の皆様といつも通りに交流を長く続けられていくことが、そして、皆様が故郷をいつも大切に想っていたに繋がります。本当にありがたいことです。この「いつも通りの繋がりがこそ」が、今とても大切なことだと深く理解しました。

終わりに、会員の皆様には地域真田のますますの発展のために、そして変わらぬご支援を賜ります

ようにお願い申し上げます。

最高の人生の見つけ方

上田市議会議事局長

金井 浩一



私事で始まり恐縮ですが、私にとりまして今年はこの世に生を受けて六十年が経過する年であり、来年三月末日の定年に向けて淡々と過ごすつもりでおりましたが、実際には想定外の展開となっておりまして、戸惑っているところです。

まず、昨年末に病が見つかり、年明け早々から検査を繰り返していましたが、そのたびに大事になっていくことを経験しました。一時は早期退職も視野に入れましたが、幸い、二月下旬からの手術・入院治療の結果が良好であったことから、一か月ほど休んでしまいましたが、最後の一年間の職務に当初から復帰することができました。その後

は、完全に手術前に戻っているわけではありませんが、日常に大きな支障はなく過ごしてきました。

ところが、生まれた年が1959年、あの伊勢湾台風の年であること、因縁なのか、台風19号がいきなりやって来て、訓練ではない、実際の災害対策本部の末席を占めることとなりました。被災された全ての皆様に、お見舞い申し上げます。このように、何かザワついた気持ちにくすぶる中で、「最高の人生の見つけ方」というハリウッドの大御所男優二人が主演した映画を、吉永小百合、天海祐希の女優二人でリメイクした映画を観ました。死期が迫った二人が、十代の女の子が記した、「死ぬまでにやりたい十のこと」を実行していくというストーリーとタイトルに引かれたのかもしれないが、映画から感じたことは、大きな構想や目標を持つと、人は前向きになれるということと、何が本当のことなのか、何が一番大切なのかを冷静に突き詰めて考えると、人はより良い結論を導き出すということです。映画の状況ほど切迫してはいませんが、病の再発の警戒はまだ年単位で続きます。気持ちがザワついていた時は「最高の人生の見つけ方」を考えたと思います。

私のことは、今年の十月に起こった全国の災害からすれば些細な

《広告欄》



土木工事 解体工事 測量 造園 除雪

株式会社山崎商會

代表取締役社長 山崎 勇治

〒386-0002 長野県上田市住吉 1039-2

TEL 0268-24-6221 FAX 0268-27-7558

e-mail: yamazaki_shyokukai@yahoo.co.jp



山崎公認会計士事務所

Yamazaki CPA Office

公認会計士/税理士 山崎 友揮
(長野県上田市住吉長島 出身)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-12-7 MSビル6F

tel 03-6272-6539 fax 03-6272-6765

e-mail: yamazaki@yy-cpa.com

ことかもしれません。
時がたつても、悲しみや後悔や、どこかにぶつきたい怒りに囚われている方々がいらつしやると思えます。そのような方々に前向きな気持ちで芽生えることを祈念します。

食と農で地域に笑顔を

信州うえだ農業協同組合

代表理事組合長 眞島 実



東京真田会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

本年5月のJA信州うえだ臨時理事会において、代表理事組合長に選任いただきました。農業や地域を取り巻く環境が大きく変わり、厳しさを増しているなか、地域の農業と食を守り、組合員をはじめ地域の皆様が安心して暮らせる地域社会の実現を目指し、全役職員一丸となって取り組む所存でございます。

います。

このたびの台風19号により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧をご祈念いたします。故郷うえだでも各所で被害があり、多くの方が恐ろしさを実感する災害となりました。私どもJAは、被災された農家の皆様そして地域の皆様が必要とされている支援を全力で行ってまいります。このようなときにこそ、JAの根幹である「助け合い」の力を発揮し、皆様とともにこの危機を乗り越えていきたいと思っております。

さて、東京真田町の会の皆様には日頃から、信州うえだの農畜産物をご愛顧いただくとともに、地域農業の活性化や地域づくりに対し幅広くご支援・ご協力をいただいておりますことに、心より御礼申し上げます。

また、本会報「日本ダボス」におかれましては、貴会の設立以来発行されておき、今号で三十二号を迎えられましたことは、役員の皆様をはじめ会員の皆様のご尽力はもちろん、会員各位のふるさとへの深い愛と団結力の賜物と深く敬意を表する次第であります。

本年は待望のラグビーワールドカップ日本大会が開催され、「ラグビー合宿の聖地」といわれる菅平高原を中心に地元も大きな興奮と

感動で湧くとともに、イタリア代表が合宿に訪れるなど、日本にとどまらず世界へもその魅力が発信された年となりました。

当JAも、地元企業の皆様のご協賛をいただき、地元の自慢である菅平高原産レタスの出荷箱に、「高地トレニングの聖地菅平よりラグビーワールドカップ日本開催を応援します」と記して、ラグビーワールドカップの応援と菅平高原のPRを全国へ向けて行つてまいりました。皆様もどこかで目にしていたいただければ望外の喜びです。当JAはこれからも地域に根ざした協同組合として、地域の皆様をはじめ信州うえだを愛する皆様とともに手を取り合いながら、元気な農業そして活気ある地域づくりを進め、「食と農で地域に笑顔を つくる」ことを目指して取り組んでまいります。

今後ともご支援・ご協力を賜れば幸いに存じます。

結びに貴会の更なるご発展と会員各位のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます。本会報「日本ダボス」に寄せるごあいさつとさせていただきます。

☆

☆

《広告欄》

菅平まんじゅう
製造、販売

かんせいえん
菅清園

地酒・地ワイン・地ビールも揃えております

菅平高原 菅清園 Tel : 0268-74-2525 Fax : 0268-74-2655

東京真田町の会

会報発刊に寄せて

信州うえだ農業協同組合

真田地区理事 北島 一博



会の皆様5月19日の総会の際には大変お世話になりました。大変貴重な経験をさせていただき、感謝申し上げます。

またこの度、会報に寄稿させていただくチャンスが戴きました。と御礼申し上げます。これから五ヶ月、皆様いかがお過ごしでしょうか。

我が町真田では朝4時8月の初めには東の空の山際に顔をのぞかせていた冬の星座オリオンが今は天頂に輝き、昼間には山々の紅葉が始まりまして天気の良い日には秋らしい素敵な景色を見せてくれる様になりました。

しかし残念なことに先日10月12日夜半に襲来しました台風19

号、菅平では民家の屋根の一部が剥げたり、花ハウスが押しつぶされる被害が、傍陽ではリンゴの落下、洪沢では住宅が流失、自治センター隣の橋梁取り付け部分がえぐれて通行不能に、真田の広い範囲で数日にわたる停電が発生するなどかなりの被害が出ました。このため菅平のJA祭は台風到来当日のため中止となりましたが、翌々週に行われる真田でのJA祭は「被害に遭った農家を支援したいこう」と開催することとなりました。

今年を振り返ってみますと、御嶽海二度目の優勝、ラグビー8強進出など嬉しいことがありました。反面、長雨に高温干ばつ、消費税増税、さらに幾つもの台風が襲来したうえ、野菜の単価安と、農家にとつては泣きつ面に蜂の年でした。安い物には訳があります。高い物にも訳があります。一概に何が良いということは有りませんが安い物ばかりを追い求めていると国内には後継者がいなくなり気が付いたときには国産は無くなってしまうて、美味しかったあの味はもう味わうことは無い……。そうならないようにしたいところですが若者は生活防衛のため旧上田市内に下つてしまっています。

真田には代々親から引き継がれた農地とそこに詰まった知恵、試

行錯誤する中で親や仲間の知恵を噛みしめ、そこから新しい考え方と技術を作り上げて行く「開拓者魂」それこそが農業を続けていかれる原動力だと思ふのです。そして仲間がいるからこそ頑張れる共同の精神、それこそが農業協同組合なのです。そういえばNHKの朝ドラ「なつぞら」でも協同組合設立の場面がありましたね。これは現在の「よつ葉乳業」の話だと言われています。

私達もみんなで協力し合つて盛り立てていきますので皆さんの応援をよろしくお願い致します。

とりとめも無い話になってしまいましたが、また皆様にお目にかかれる日を楽しみにしております。

最後になりましたが、東京真田町の会のご発展と皆様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。ありがとうございます。

金縄山実相院縁由記

天台宗金縄山実相院田村將軍祈願所開基「行基菩薩」

解説 落合 寛如

(昭和十八年記)

上田駅より社線に乗りかつ上田市の西近郊を電車はうねり太郎山

の裾を北東に廻り約四十分程車窓からトンネルや鉄橋を渡り上越境の四阿山(アズマ)の白い嶺を眺めつつ心地よく車響にゆられてゆけば、いつしか、村の中央傍陽(ソエヒ)駅に着く。東は菅平の山岳に隣接し、洗馬(セバ)川が流れ西は裏太郎、山に囲れ松代に通じる。

その昔維新の英傑佐久間象山が雨の日も雪の日も勉強修業のため、神川村龍洞院活文禅師の元へ、かよはれたと言ふ地藏峠の裾より発する軽井沢川の清澄な流れが、岩魚を躍らせて流れ下っている。そして、八百戸の村落がこの両川にそつて東と西北に続いているが、北は天狗岩山の険峻な峯が聳えて峯山部落を越えて須坂境に連なっている。

傍陽駅より歩行して約十七、八分爪先登りの道を行けば、天狗山を背景に小縣東北部最古の名刹天台宗金縄山実相院の伽藍が毅然とそびえ建っている。

村の駅が中央部落で民家の戸口からさえ、この村の南方は開けていて眺望がきき富士山のいつも白い姿が見える。

部落より一段と高い、この金縄山の霊域からは秀麗な富嶽が、立科山の長びく裾の彼處にくつきりと南の青空にすらなり眺望絶佳な地である。

春は古来櫻花の名所として全山

花に包まれ一茶が観賞して、

「天からでも
ふりたるやうな櫻かな」

と、この山寺を訪れて一句とものにし、今は境内に相馬御風題字に依る句碑が櫻樹の下に建っている。また、このさくら咲く時、時候に年中行事の一つとして近郷に知れ渡っているガマ戦合が寺の付近の山から集まりて合戦し、壮観なものである。夏は池には白蓮華が開き芳香をあたりにただよわせている。舞台作りの高壮な馬頭観音が安置されて居り、観音堂が老杉の間から西側の山頂に建てられてある。さて、暫くこの古刹の縁由記をひもといてみよう。

レコード入れる。(音楽)

(天台宗歌 あきらけくのちの
佛のみ代までも、ひかりつたえ
よ法のともし火)

今から凡そ一千二百四、五十年程前のことである。

神亀二年春三月とはいえ、北信濃は、雪解けの水があたりの山々から谷川へ音高く流れ下る頃のことである。ひと雨毎に遠い高い山々も白い斑点を残し、雪が消えて、雪解水がものすごい勢いで流れ下り、河川は氾濫し、このあたりの道路を破り橋を押し流すのであった。この地を一人の旅僧が峯山(ミネヤマ)の険峻な山路を越え

て北陸の忝澄(タイジヨウ)法師訪ねんと、この地を過ぎやうとした。

折しも土地の人々が難儀する雪解の作業を知り旅僧は、土地の人々に協力して、橋を架け道路を作り、人々の難儀を救った。この僧侶こそ当時の高僧行基菩薩であった。この地に、しばし留まり日中は作業に、夜は法華経八軸を誦し、佛教宣布に心を全して居られた。

或る夜法華八軸の経巻をいつもの如く誦誦して居るうちに夢うつつのうち観音の尊容を拝し、その靈感に打たれしに依り直に傍らの老樹を切り観音菩薩の御像を刻む。土地の人々行基の徳をしたひて假りの御堂を峯山の奥地に建立し、その観音菩薩の御像を安置す。人々観音の靈感信心篤く参拝するもの陸続す。

行基しばしこの地の人々の崇慕(シタフ)する。袂を拂ひつつ、越路に立去りけり。

其後、恒武天皇の御代大同元年征夷坂ノ上の田村麻呂將軍勅命を奉じ東北の蝦夷(皇化に浩さぬ族)を平げ、その帰途この地に来り、隣村長村(オサムラ)角間の岩窟に盤踞する賊を平げんと先づ、この観音に祈願をこめ、よく観音の妙智力に依り無事巨賊を平げ、賊を殲し、来り、この地(寺)に埋む。その時賊を縛し(ユワク)、来るに金の縄を以て縛したに依り、山号

を、この時、「金繩山」(注1)と呼称するに改まったとある。

金繩山と改める以前は靈鷹山慈濟寺(レイオウザンジサイジ)実相院、田村麻呂將軍時代には、金繩山実相院観音寺といった。

さて、將軍はただの武力一方のみの人ではなくやはり人を感化させ悪心を善心にかへらせるだけの感化力を徳を備えていたもののふである。古来我が国の英傑、偉人、忠臣のならひであり、信仰篤つき人物のしからしめるところである。眞の武人はもののあわれを知る、賊は昆那王という。將軍の偉大な感化力に依り昆那王も今迄の悪行を改めて皇代に浴せしめられ一個の日本人とし眞人間にたちかへられたのである。

將軍は懇ろに昆那王をこの地に埋葬し、後生善處の為延命地藏尊をまつりて、供養した。現在の石像の地藏尊が、それである。境内の池畔に何代目かの老松が、樹齡三、四百年もするであろう、地面に奇景を映しているのが鬼を埋めた傍らに植えた松であると、傳えている。その傍には大石が置いてあるがそれは、鬼を埋め、その上に大石を置き、その上に五輪塔が置かれて建っている。古くから鬼石と呼び鬼松鬼石、鬼松地藏尊と呼び伝へられてゐる。

従つて、この地藏尊の心信する

参拝者は絶えない。

尚、將軍は観音堂を峯山の奥の堂平、高寺(高平)多寒寺と、今も名称された地跡があるがそこよりこの地に引下して新に堂を建立してその観音像を安置した。尚その時、寺へ耕田を下附して寺門の繁栄をはかった。

現在の寺より堂平といふ、地は凡二里程峯山部落より北の険峻な道を登りつめた處で今、尚一千年古の跡が礎石の点在するを発見する。

南方を見下ろせば佐久平が一望の内に眼界に広がって遠く富士山が浮かんで見える處である。往時、ここまで参拝者はあつたのであるが、冬は雪深く寒さ厳しく、そのため多寒寺とも呼ぶと伝えている。従つてこの地に移したとも言う。

大同元年にこの地に観音堂を引下して將軍が建立されたのである。

其ノ後、鎌倉時代に成り源頼朝公がこの観音を信仰され寺領を下げられた。足利時代には、足利將軍の堀田式部少輔の守が(貞治二年)法經印塔を建立されたものが境内の庭に現在ある。

この当時は伽藍は整ひ堂宇高荘にして寺門の繁栄し居たが、惜しいかな雷火のため焼失し、全く昔の影を留どめず観音の御像、支那伝来の金胎曼陀羅二軸を取り出したのみにて宝什物の大半は失はれ

た。

其後武田村上義清との戦国時代再び丘戦の難に遇いて灰燼となり武田信玄公の領地となるや信玄公堂宇を建立、寺領を下げ大いに寺門の隆昌を拙めり。然れども、現在の観音堂建立落慶入佛供養までには二十年間の星霜を経て近在の近郷の信者により奉納資材人員を費して、天明三年造営なり。

やがて徳川時代となり現在の本堂は五十六世高豊代造堂せしもの。近世に至り、今より一百四、五十年前、五十八世寛融和尚は名僧にして、当時の学者、文人墨客、志士等和尚を、訪ねしもの少なからず、和尚変わった書を良くす。

江戸の国学者漢学者、亀田鶴斎活文禅師(象山の師匠)、一茶、等私堂を訪ね、書を詩を歌をものせしもの今日に残る。

鶴斎の書三点(裏座敷の額)「環縁閣」、本堂書院の「俊嶺軒」袋棚の中にある軸物碑文の「金繩山縁由記」境内に建っているものと同一。

活文禅師の詩、軸物(戸袋の中)一茶の碑文(天からでもふりたるやうなさくらかな)其他太古の石器時代の「石劔、石斧」。真田三守の寄進せる大般若経大百卷(観音堂)。同じく上田藩主信之公の書二通。寛融和尚拝領、日光輪王寺「日光御用」。

寛永寺門跡より拝館の襖の絵の軸。金胎曼陀羅の図二帖。等が主なる什宝物なり。

この時代の世相と寛融和尚を中心にして人々の動きと寺との関係を綴れば、長いものが書けるが、この際は、はぶいておきます。大体アラマシは以上です。

大杉(神代杉)は樹齢七、八百年との推定。

寛融和尚書の「芳樹歌屋」(ホウジュカオク)、この座敷より富士山が眺められ結構な寺(ウチ)という意味なる額です。

(注1)金繩山(かなづなさん)

(実相院 長野県小県郡真田町

傍陽五九二一番地)

(資料提供 副会長深町共榮 2018

年12月25日)

謝辞 本稿の校正では落合寛如(おちあいかによ)氏ご息女杉村房枝様に多大なる御協力をいただきました。ここに厚く御礼を申し上げます。

我追憶

八木五郎 (中横道)

漫談の綾小路きみまろさんが「あれから四十年」と大勢の老若男女の笑いのアイドル。ポンポン次々とよくぞ笑いのねたがでてるものと感心する。「人はオギア

と生れて、最初に吸った空気を、生涯に残し、最期にそれを吐いて死ぬ。」なんて聞いた事がある。



真田の郷を15歳で離れて六十余年、何とも早い事、義姉さん93歳で我生家を守っていただいて居る事に心よりありがたく思います。後期高齢者になった我もパートながら現役勤め好きな山にも登る事のできる体に亡き両親に感謝です。以下、昭和二十年代の物資の無き頃を、あんな事、こんな事書いて我がの記録としたい。

実家は農家で穀・野菜は自給自足、養蚕も春に桑の芽葉出ると春夏秋晩秋(桑葉ある場合)蚕様々に家中占拠される。当時卵何g養う、毎回100g余養うので成虫になって何万何千蚕が桑を食べ出す独自のシヤア・シヤア・シヤアの音と共に食べる、食べる、食べる。夏休みは家の一員として朝早く、露でビショ濡れの桑切りに離れた山の畑ヘリヤカー押して、濡れた桑は家の中専用の機器に火を焚いて乾燥枝葉のまゝ与える。いやあ…木枝残し

て、蚕様の食欲あることアツと云う間に真つ白な蚕様丈けになる、のくり返し、一カ月で繭に。当時の現金収入だったので農家はほとんど養蚕やっていたつけ。当時のお盆は、火薬(花火)を嫌う蚕の為に先延ばしの九月だったように記憶している。

牛も、うさぎ、にわとり(卵売って学級費に)、やぎ、豚も飼った。朝飯前に、まず家畜に餌やる事が日課。ある時学校から帰ると、家の入口通り立つと必ず鳴く牛の声がない。不審に思つて牛小屋を覗くと子牛に入れ替わつて。我居ぬ間に、馬喰に替えられちゃった。「泣けた。泣けた。こらえきれずに泣けた。」意味違うけど三橋美智也さんの哀愁帯びた声が胸にビビッと突きささったのもこの頃だったかな。

一応労力の一人ではあるが、親父達は昼食後一時休息昼寝をする。このタイミングを見計らつて、川にドブ(石、草で川の流れを止める)で泳ぐと云うより、水浴び、カジカとり、水面覗いて、カジカをモリで刺し、川干し(川の流れを変えて)水の少ない所で、手で掴みどり。夏でも裸で長く水に入つて居ると体が冷えて、口びるがブツと色(紫色)に、大きな岩石に腹ピツタリ抱きついて焼けた石で暖をとる。足長蜂の巣を見付け、草燻して

探るんだけど足下に潜伏の蜂に何度か刺された(例のアンモニアで処理)。小さな白く長い蛹は旨くはないけど食べた。山奥の畑の清流に岩魚も居たけど、人影が川面に映ると、処かえいわなはメツタに手に入らぬ高値の華だった。山しように魚(背は黒色腹は白、小さな四本の足)弁当箱フタに泳がせて踊り食い。捕えたまむしやしまへびは焼いて、青だいしょうは大きく骨硬いので石の上で金鎚で叩きミンチだんごにした。形の悪い繭は湯掻いて真綿にする、蛹残るので焙烙(ほうろく)で炒り塩パラパラ香ばしく旨い。冬は針金毬で山鬼(三ツ違いの次男(亡)、松茸・ヘビ・山鬼・山獣等の捕獲は群を抜けていたなあ…。)田中に捌(さば)き専門のお爺さんに肉骨皮に別けていただいて、白ピンク色の肉は(玉子生み終わった年寄りにわとり肉より)柔らかく蛋白で旨かった。桑の実(みぞ)、赤色から黒紫に成る頃が甘酸っぱく忘れられない。当時口に入っているもの何でも来い、の下手物食いは私だけかもヨ!

五、六年の担任は信州新町より転任の二十代後半の熱血先生だった。クラスに与えられた花壇に土俵を造って体育は相撲とった。不思議にも行司の持つ軍配も有った。図工の時間だった、曲尾の黒淵へ(上田丸子電鉄電車走ってた)大

きな高い岩の上から深い淵に飛び込んだ。当時海パンなどなく、手拭に細い紐を縫い付けた簡単なフンドシ。飛び込んだ勢いと水に入る時の圧力でポロリ外れて小さなチン出し、誰が撮ったか、写真持って居る奴が同級会に持参、笑いの種に、何でも夢中、勢一杯やった事懐かしい。

五年生の秋の遠足、米一合背負って角間の沢から道無き獣道らしき峠越え三クラス男女百二、三十名の列、三人の担任先生他二人、五人先生引率、傍陽より朝から歩いて、歩いて日はまだあつたけど夕暮れ近い新鹿沢温泉に到着、クラス男女別、外内風呂に入って汗流すも、かなりの大きな湯舟に芋洗いごとき、遊山戯けあつた。

夕食はお替わりOKのカレーライスを腹いっぱい食べて就寝は頭を中に揃えて十人十人の二列のザコ寝。朝から歩き疲れ、温泉の余韻もカレーライスの満腹感でバタンキュー。この夜半、我が三組男子だけが知る。今なおクラス会で語り告げる珍事件と相成りて候…。事件はあまりにもリアル過ぎるので省略。

我犯人の一人なので、戯(イタズラ)はやった方もやられた方も笑いのある事が何とも爽やかに想う。遊び娯楽は我中横道(五林堂)に子供の神様、道祖神の祭り(子供主

催)。石に掘った石神様左右に幟(のぼり)ならぬ小旗を立て隣に屋根付きむしろで囲っただけの一夜城(小屋)お札を刷り、各家を廻って寄付を募る。集めたお金で五目飯、豆腐汁を造っていたのだ。二月の寒中、炭コンロ一ツ冷えた体には何とも嬉しかった。この頃の道具、実家に賽銭箱、旗、板木(お札刷る)あつたけど私の後、祭りやったのか?定かでない。藁馬(わらうま)に餅俵を引かせる行事は戸沢でまだ続いていると聞く。

テレビは無くラジオは3Qスーパーだっと思う。蚕が引きて(繭を造る寸前)白成虫から黄色っぽく長いながい糸を口からいっぱい出して繭玉となる。その繭になる寸前の蚕拾う仕事をしながらラジオから廣澤虎造さんの浪曲、金馬さんの落語・眠い目をこすりながら聞いたつけ。月一回の巡回映画も楽しみだった。「これから」と云う場面画面が黄色になるとフィルムが焼け切れて、フィルムをつないで再映、当時の映写は何回も切れてあたり前。春桜の四月廿日過ぎ下横道の小陰様、秋は上横道の御嶽神社、穴沢の上洗場神社、祭りには神輿と獅子舞が付き物。祭り近くなると青年団の諸先輩が練習する笛太鼓の音がくり返えし夜遅くまで公会堂から聞こえた。祭りは大人・子供相撲もやった。当時、

上横道に鉾山があつて働く人達の筋肉の体に迫力十分圧倒された。当時は駐在所のおまわりさんも一緒に取組、終了後お神酒と称して大きな升に波々の酒グビグビ飲んで居た…。七十年前前になるだろうか。

この四月、菅平の義兄の葬儀のあと、実家の墓参りの帰途でこのと、番屋の横道の十字路で子供や大人十数人見守る中、笛・太鼓に獅子舞あり。我幼少の頃は男子獅子の暴れ獅子だった印象も年と共に老いてか、何か静かな大人しくなった感じに思えた。けど、何んとも懐かしく、笛、太鼓の音に聞入る事出来て嬉しかったです。終わります。



☆

☆

第三十二回 総会および懇親会の報告

事務局長 神田幸雄(横尾)

1. 総会

司会 副会長 深町共榮

1.1 会長 金子 誠挨拶

皆さんこんにちは。清々しい新緑が目にする季節の中、令和元年五月一日新時代がスタートした記念の月であります。第32回東京真田町の会、定期総会および懇親会を開催できたこと喜ばしいかぎりです。公私ともお忙しい中、上田市から副市長様、4月に就任された真田地域自治センター長様、上田市議会議長様と議員皆様・議事事務局様、JA信州うえだ真田地区代表理事様、事業部長様および次長様、菅平店・店長様、女性部の皆様、東京上田会会長様及び東京丸子会会長様のご出席を賜り誠にありがとうございます。後ほどご紹介させていただきます。

ご来賓の皆様には、お召しものに地元の空気をしみ込ませてのご来場に、東京の空気は一瞬にして田舎の新鮮な空気に、さらにJA女性部方による新鮮野菜のご提供によって会場内は真田町一色になりました。

ました。

このような雰囲気です。今を迎えることができたのも、皆様のご支援とご協力の賜物であると感謝しております。さらに、会員皆様では、このように和やかな雰囲気のもとでお逢いするのは年1回のこの会場であります。昔の「ふるさと」の思い出を遠慮なく話され、お国訛りで語らう楽しみの中で、親睦を図って頂きたいと思っています。

さて、3月31日付発行「しらかば通信No.23」で本年度の行事を概略お知らせしました。その中で「ふるさと訪問」旅行の10月27日(日)、28日(月)は鹿教湯温泉「鹿鳴荘」に宿泊し、ふるさとの長・傍陽(昔懐かしいカエル合戦の金縄山実相院観音寺に立寄り)・本原・菅平を二日間で一巡します。想い出の小学校への立ち寄り、昨年9月1日から供用を開始した「菅平高原アリーナ」で屋内競技場やトレーニング施設も見学します。

本年は、ラグビーワールドカップが日本で開催され、出場するイタリアや代表チームが菅平高原でトレーニングキャンプを張る話を聞いております。

7年前もゆきむら工房で「そば打ち体験」をしたように、ここで修行して昼食する企画もあります。大勢の皆様に参加していただけますようお願いいたします(案内通知は9月中旬ごろになります)。

受付でお渡しした資料のように、7月には都立神代植物公園の散策計画もあります。担当理事から後ほど説明がありますので多くのご参加を期待しております。

皆様のご協力をいただいて、この総会を早めに終了し、待ちにまつた懇親会に多くの時間を充てたく思います。

最後に皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げ挨拶いたします。

1.2 上田市副市長の挨拶

井上晴樹様

本日は第32回総会にお招きいただきありがとうございます。市長は地元行事のため私からお祝いの挨拶をお贈りします。

さて、東京の方々とは三区(練馬、板橋、および台東区)、埼玉では三市(さいたま、所沢、および鴻巣市)と姉妹交流をするなかで上田をアツピールしております。

スポーツではご存知のように、一年前から菅平へ伊国チームが来

ておりサニアパークなどで交流し、上田では子どもたちがボールの代わりに腰布を争奪するキッズラグビーの振興につとめ、国際交流への期待を大きく盛り上げる熱のいれようです。

最近、上田市の動きでは、ゴミ焼却場の建設問題があり、市役所庁舎の建て替えも進行しています。さらに、市長出身地丸子ではワイナリーの建設も進み、地産品が全国に拡散することが期待されています。

全編のほとんどが上田でロケされた「兄消える」も当地で初公開され、渋谷区でも公開されています。ふるさと納税が話題になっておりましたが、うえだは趣旨に沿って受付けておりますので、皆様宜しく願います。

最近では、真田出身で不動産会社経営の方から福祉バスリニューアルのご提供をいただき誠に今年の始まりとなって慶びもひとしおです。

本日は、総会の開催を心よりお慶び申し上げます。

1.3 議事

- (1) 平成三十年度会務報告および会計報告 会長 金子 誠
- (2) 平成三十年度会計監査報告 監事 荻原啓治
- (3) 令和元年度事業計画および

予算の決定 会長 金子誠

提案された報告、および事業計画と予算は、本日会場に出席した全会員の一致により承認されました。

☆ ☆

○ご来賓を囲み集合写真を撮影。

2. 懇親会

司会 荻原啓治

2.1 歓迎の挨拶

顧問 山口元彦

みなさんこんにちは。

ご来賓の方々、遠路をお越しいただきありがとうございます。

そして会員の皆様におかれてはお互いに、長かった一年ぶりの再会です。

またとない、この機会を楽しくお過ごしただければ嬉しいかぎりです。会員およびご来賓の方々にはうち解けた雰囲気の中で、できごとや話題で、こころのふるさと、おもいでのご郷を共有していただきたいと考えております。

このような主旨もあって、議員の皆様には会員に近いところへ着席いただくようお願いしております。

歓迎とは遠い言葉ばかりで、また、ご来賓の方々へのお願いばかり

で申し訳ございません。大いに語り、熱き想いを交歓し、思い出に残る交流になりますことを願っております。

2.2 来賓の紹介

司会 深町共榮

ご来賓十九名の皆様を紹介いたします。

上田市行政の皆様(三名)

上田市副市長

井上晴樹様(秋和)

真田地域自治センター長

山崎完爾様(殿城)

真田地域自治センター

地域振興課

望月領都様(国分)

上田市市議会関係の皆様(六名)

市議会議長

小林隆利様(鈴子)

市議会副議長

土屋勝浩様(長島)

市議会議員

古市順子様(竹室)

佐藤論征様(真田)

齊藤加代美様(海戸)

市議会事務局

春原恵美子様(上塩尻)

JA信州うえだ真田地区の皆様(八名)

理事 北島一博様(菅平)

事業部長

西沢栄泉様(竹室)

事業部次長

大塚昌幸様(真田)

菅平店長

宮島英雄(戸沢)

女性部部长 久保町子(竹室)

同副部長 松沢ふみ江(角間)

同副部長 武捨きよみ(中組)

同事務局 石谷いずみ(上塩尻)

在京の他会の皆様(二名)

東京上田会会長

山崎齋明様(室賀)

東京丸子会会長

土屋 博様(上丸子)

2.3 来賓祝辞

○ 上田市市議会議長

小林隆利様

あけましておめで・・、あー、イヤー 嬉しさのあまりつい我を失って「明けま・」が出てしまいました(会場のワライ・)。あかるく元気な総会に嬉しさ満載であります。

本日はお招き下さりありがとうございます。先ほど副市長の挨拶にもあったように、町ではこの一年伊国チームの招聘に絡んだ行事などで話題盛り沢山です。

とくに「子供たちに大きな夢」を持たせてくれるワールドカップの成果に期待しております。

つい先日は、30年前に真田町が大地に託したタイムカプセルの開封行事に出席してまいりました。その情景では、当時の皆さんの思

いが感じられて、立ち会った方々の心で感謝無量な姿をみました。そのようなことがあって、まことに由緒ある行事が多く嬉しいかぎりです。これからも本会のご発展と皆様のご健康およびご健勝を、上田さんだから応援しております。会場の皆様、本日はほんとうにおめでとうございます。

○ JA 信州うえだ真田地区

理事 北島一博様

第32回総会を迎えられた晴れの日おめでとうございます。栄えあるこの席へお招きいただき、私もJAはふるさとの緑を携えてまいりました。菅平はようやく春、そこに芽生えがあるとはいえ、降霜もあって仕事にはようやく目覚めたばかりです。

そういえば、先ほど「健康色ですね」と会場の方から声をいただきました。これはハワイ色でもゴルフのそれでもなく、立派な農園色!! ですので、こんな陽の恵みを迎えた高原の四季になりました。

ここで、農業の話題をいくつか紹介します。

一つは今日産直でお邪魔している元気女性のことです。この方、JAさなだ女性部部长だけでなく、長野県本部でのそれも務める枢要実力の真田出身の久保町子さんです。つぎに県青年部の部長を務め、同部での全国活動実績最優秀賞を

獲得した女性方もここにおいでです。それとともに、子ども達のためにサッカーで上田真田に現役・引退後の選手に来ていただく育成プログラムに尽力しつつ、現在数名を獲得してくれています。当農活動では畜産青年たちが信州太郎ポーク肉まんを提案、製造し大河ドラマ館などで三年間に30万個のJA販売実績をつくりました。果樹育成活動では林檎六人衆の若人が「真田レッドアップル」でJA最優秀賞を獲得するなど勢いをつけています。

最後に、長らく生産者の念願であった「コールドチェーンの基幹」をなす三基目の保冷库を5月に竣工(1億円)しました。この事業は地元生産者の知恵と総力の賜物であります。

このような報告をあわせ携えて、農業部門では都市部の皆様から絶大なるご支援をいただきました。めでたい席へお願いにあがりました。農協の仲間を代表してこの席にてお祝辞を申し上げます。

2.4 乾杯の挨拶

会員 倉島義明様(横浜)

皆さんこんにちは。乾杯の指名にあずかりました倉島でございます。本日はおめでとうございます。では、皆様ご唱和をお願いします。

みなさんのご健康と
ふるさとの発展を祝し 乾杯!

☆ ☆

紹介「さなだアップル100%」

これを携えてJA真田から8名で参ったうちのひとり西澤でございます。地元販売限定のもので皆様のお手元にお供しております。ふるさと納税の返礼品にもなっておりますのでご賞味ください。

2.5 宴会と催し

しばらく歓談のあと、カラオケには、先陣をきってご来賓お二方がご登場くださいました。負けずに会員方も張りきりました。

「お楽しみタイム」

ふるさと真田町から会員皆様へ次のような披露がありました。

センター長山崎完爾様のご挨拶があつたあと、「ふるさとリンゴ券」の抽選が始まりました。福袋には出席者名簿の地区・番号の札(長10名、本原2名、傍陽18名、ただし役員と顧問を除く)が入れてあり、これから無作為に10本を取り出していただきました。山崎様の手が袋から抜けるごとに、ひとつ、ふたつ、...と、10回分を卓上へ並べていただきました。これには皆さん、ヒヤヒヤです。

つぎに、これらの札文字が(静かに)読みあげられるたび、掴まれた会員からは「〜来てよかったで〜」

と笑みに喜びの一言が会場へ向けられると、お祝いの拍手も・・・

「アトラクション」

後半にはご期待の、副会長柴田様から紹介のあつた初の試み「あずま路キッズ」歌舞伎です。

いま、世田谷区で稽古に励んで活躍中のお子様方三名によるもので、さきほど、銀座三越会場から上がつてこの宴に向かつて下さいました。春ふさわしく華麗な衣装に身をつつみ、三つの演舞でこの会場を沸かせてくれました。ご来賓の方々からは予期せぬ好評をいただきました。

☆ 真田音頭

輪踊りで夢から醒め、身体をシヤンと伸ばし、お別れのときを迎えました。

2.6 閉会の挨拶

理事 一之瀬和夫

さて、みなさま宴もたけなわではございますが、名残り惜しくも閉会の時も迫っております。

ご来賓の皆様方お忙しいところ、遠路をお越しいただきありがとうございます。皆様には首を長くくして待ち続けたこの懇親会も、瞬く間に過去のものとなりました。次の一年に向けて、今からまた挑戦が始まっています。

これにて閉会でございます。なお、うえだ真田からのご来賓

みなさま、お手回り品をおまとめのうえお帰りのお支度をなさってください。二分後には会長らが見送りいたします。

会場の皆様には厚く御礼を申し上げます。

☆ 出席者(会員三十九名・敬称略・出身地区・旧姓)

― 長(17名) ―

一之瀬 和夫	大日向
岩崎 みち子	菅平・正木
大久保 あき子	菅平・川上
大橋 けさ子	菅平・山本
荻原 啓治	四日市
川上 年美	菅平・宮崎
神田 幸雄	横尾
倉島 義明	横沢
小林 栄子	菅平・川上
坂口 典和	真田
柴田 小夜子	菅平・市村
杉崎 壽三男	菅平
鈴木 邦子	横尾
鈴木 マツ子	大日向・塩沢
中島 正江	戸沢・関谷
宮島 光男	横尾
山口 元彦	横沢
― 本原(2名) ―	
飯島 慶三郎	下原
岩井 泰子	中原・荻原
― 傍陽(20名) ―	
井上 かつよ	田中・堀内
金子 誠	田中
海瀬 弘司	曲尾
小林 重利	入軽井沢

坂口 守	中横道
佐藤 昌江	萩・柳沢
杉村 房江	萩・落合
関 弘吉	中組
館野 清實	田中・堀内
中沢 欣勇	下横道
中村 洋子	田中・木下
萩原 清人	萩
半田 喜章	中横道
平田 金子	岡保・橋詰
深町 共榮	田中・山岸
堀内 福	下横道
堀内 照美	上横道
堀内 寿美	上横道
堀内 幸	下横道
堀内 保芳	三島平
牧内 泰男	萩
八木 五郎	中横道
野間 亮子	萩

☆ 同伴者 (1名) — 横尾・北沢 ☆

各部の活動報告

(一) 親睦旅行

計画 会長 金子 誠
実行 事務局長 神田 幸雄

二日間とも好天に恵まれた旅でした。心残りには、15号台風の惨禍にあった千葉在住の方々が急遽、参加を断念せざるをえなかったこととです。一日も早い修復と、心傷が癒されることを願っております。

(1) 期 日

令和元年10月27日(日)、28日(月)、保険証持参。

(2) 旅 程

一日目：ゆきむら夢工房でそば打ち体験・長、本原、傍陽小学校への立寄り・金縄山実相院観音寺(注)・鹿教湯温泉鹿鳴荘で泊

へ 行 程

JR大宮駅西口ソニックビルパレスホテル前に9名が集合しました。

定刻の9時に鹿鳴荘の小型バスで発(国道(16号)川越IC(関越道)へ途中適宜に休憩)上信越道(横川SA(休憩)上田菅平ICから高速道を出。JAうえだ食彩館にて15分休憩)12:30ゆきむら夢工房、ここで地産蕎麦粉によるそば打ち体験と昼食、発13:50(55長小、14:15本原小、14:35傍陽小)14:45金縄山実相院観音寺見学15:20(着17時ごろ鹿鳴荘。

大きく遅れることもなく、夕暮れのなか無事、宿に迎えられました。慣れた湯舟に浸かってひと安心。

○ 一日目のできごとまとめ

上信越道では19号台風による土砂崩れがあったので迂回路をとりました。車中(わけをはなさず)、みどり大根収穫祭パンフや生産組合記事を回し、食彩館で夕食サブライズ用にそれを4本買込みまし

た(殆んど小ぶりがおおく)。

「そば打ち道場での成果は・・・」

明るく床は板敷のゆつたりとした道場で、指南二名のもと三つの鉢のそれぞれに3名が一組となつて打ちに向かいました。

①原料の割合は、つなぎ2に蕎麦粉8(内二八というのだそうで、真田産粉)、一人前の原料は80gr、この一鉢240grになります。

②指南がおっしゃる手順は—まず真田水300CCの半分を周辺の粉に注いで、5本の指さきで周辺の水を粉へソロソロソロリと廻していって大豆ぐらいの小だまをいっぱい造る。鉢にのこる粉のころへも残りの水をまわしてまわしを続けます。短時間のうちに全部小玉にできればつなぎがよくなります—とのことでした。

ネリ始めたがこの先どうなるの・・・、まとまらなかつたら(しななさま、これでよろしんですの?)と心配で・・・ところが5分もしないうちに小玉も増えてきてシットリと体をなし・・・押しかためて大玉ができてきました。

③つぎに、大玉をその周辺に向けて、押し伸し(のし)つつ振りを加えていきます。このときの右手の4指の使い方は、第一、および二関節で指を少し内折り(15度ぐらい)して、掌の根部で玉を軽く押しつつ振り(いくなれば剪断)を加

えて空洞を押しだしていくんですね。鮎の鍛えと同じように。

④打ち棒で巾出しを、そして後のほうの生地切りでは額に汗して・・・

ホット一息している間に、そばざるへ山ほど盛られてきたそれにバンザーイ! 汁へかき揚げ天とネギ、それにわさびを盛って、充実した中で存分に食挑戦しました。

ひとすじも残さずにお返しされたザルを横目にした指南の顔には満足な笑みが見えました。ご指南ありがとうございます。ごちそうさまでした。

つぎに訪ねた長、本原、傍陽小の舎は日曜日とあって秋の日差しの下に静寂そのもの。その風景にかつての幼かった自分たちをかさねて、往時のひとコマを回想しました。

傍陽小の裏手に廻っていくと、わずかに離れた金縄山がありました。カエル合戦でいい伝えのある蓮池を右に見て、急傾斜で危なっかしい数十の石段を観音堂までたどりました。この廻廊の板床の隙間を覗くに・・・200年?も前の世の風景を見たような気分になりました。

このあと、夕暮れに迫りかけられて一目散に宿へ走りこみました。「宿でみどりを食し林檎土産も」着くや、手持ちの「みどり」をおろしにして、これへ野沢菜漬けを添

えて「下さるよう女将さんをお願いしました。これはボウルへ山盛のまま宴会席に飾られました。この夕宴から深町様も加わって、持参の林檎をお土産に振るまわれました。ごちそうさまでした。」

「一年前の三ちびおかみは・・・」開宴の前に記念撮影を、つぎに乾杯儀式を、三人娘の登場で宴会の幕開けです。一年の間にどれくらい成長したかな？・お姉さんはバレエのプリマダそうで、みごとな舞振りを見せてくれました。幼子たちの舞台を肴にしてはじまった懇親会も、後半の新版カラオケで踊らされてますます熱が入りました。みんな元気なようで、お料理もほとんどを終わらせていました。そのあと、部屋へもどつての二次会も楽しみました。明朝は7時に朝ご飯だそうです。

二日目：うえだみどり大根圃場・菅平高原アリーナ・菅平高原自然館・菅平小学校見学・昼食（しんりん）・ゆきむら夢工房で休憩や買い物・大松農園発・帰路に。

へ行程

発 8 時鹿鳴荘 8:30 圃場 8:50 真田町(休憩) 10:10 菅平高原アリーナ 10:35 菅平自然館 11:00 菅平小見学 11:30 12:10 しんりん(昼食) 13:00 真田町ゆきむら夢工房休憩・農産物等買物 13:30 13:40 大松農

園 14:05 上田菅平 IC 関越道(途中適時休憩) 川越 IC 国道(16号) 17時 JR 大宮駅西口ソニックビルパレスホテル前

〇二日目できつめのまとめ

みごとに朝ごはんを完食し、お世話になった皆さんに見送られ、揺れの少ない中型バスで 8:10 に出発しました。

8:40 前山の緩やかな傾斜地にあるうえだみどり圃場で生産者組合長柴崎義和様、副組合長吉田範夫様、市農林部主任土屋大地様方の歓迎をうけ、開発と生産までの研究話を伺いました。ここへの立ち寄りについては同行の皆さんには話しておきませんでしたから、突然のことでビックリされたようでした。さつそく清々しい空気の中に自然農法で育った恵みに大喜びでした。レシピ付きのみどりのほかに「何本でもおみやげに」と誘われたので重い荷物ができました。いやーこれはよかった、つぎの時もここへ足を下ろしましょう。高原アリーナでは、所長伊藤彦様に迎えられました。竣工は2019年9月、その綺麗な施設や器具に驚き、運営費用？はおおきくなりそうでした。さて、ここから5分程度の距離にある自然館では、山に棲む動植物の展示や往時の農業用具などを閲覧しました。

つぎに訪れた菅平小はもう築後40年経っています。出迎え下さった教頭先生に教室や体育館を案内していただきながら、山村に学ぶ子供たちを廊下窓越しにみて舍あとにしました。

すっかり秋色になった高原をくぐり、着いた先のさなだ夢工房では自治センター長山崎完爾(かんじ)様、政策課宮崎忠博様、同望月領都様方からの歓迎をいただきました。先だつての19号台風禍の惨状などを聞くにつけ、一行の代表から、早く復興されることを願っている、歓迎への御礼を申し上げます。お土産に真田産ブルーベリーシロップをいただきました。いつものように大松農園で林檎を買いこみ高速道へ入りました。

一般道に渋滞はなく、JR 大宮駅到着は17時ごろでした。恵まれた天候の中に愉快な道中を共にできたこと、また、鹿鳴荘様および運転手様には二日間にわたって案内をしていただきました。心から厚く御礼を申し上げます。

(注) 金縄の読み「かなづな」

☆ 旅行参加者(敬称略10名) ☆

一之瀬 和夫(大日向)

岩崎 みち子(菅平)

金子 誠(田中)

川上 年美(菅平)

神田 幸雄(横尾)

坂口 典和(真田)

《広告欄》

九段中央法律事務所

誠実に、確実に、そして親切に

弁護士 山口 元彦 弁護士 鈴木 謙
弁護士 奥野 伸二郎

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-10-1
九段勸業ビル5階

TEL 03-5215-1511 FAX 03-5215-1512

不動産に関する問題 相続問題 金銭問題
交通事故 刑事事件・少年事件 その他

地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線 九段下駅
徒歩5分(ホテルグランドパレス向かい)

柴田 小夜子 (菅平)
関 弘吉 (中組)
深町 共榮 (田中)
山口 元彦 (横沢)

(二) スポーツ

理事 荻原啓治

(1) 春季合同ゴルフ大会

例年のように本会と上田会(幹事)の合同開催で4月17日(水)、集合8:30、八王子の武蔵野ゴルフクラブ(☎042-691-2111)において行われました。参加者12名、本会の参加の飯島慶三郎氏がベストグロス賞を獲得しました。

(2) 秋季合同ゴルフ大会

本会と上田会(幹事)の合同開催で10月18日(金)、春季と同会場でおこなわれ参加者は11名でした。残念ながら本会からの参加はありませんでした。

つぎに、2020年の春季は3月末から4月上旬の計画で、上田会の宮島光男様からご案内されます。みなさま奮ってご参加ください。

(三) 四季めぐり

―立案および実施―

平31年度第一回理事會に都立神代植物公園廻りを提案しました。賛同をえて、第32回総會懇親會の受付で皆様に実施案内を配

布しHPにも掲示しました。

神代植物公園散策(通4)

開催は7月21日(日)、その集合時刻および集合の場所にはつぎの二つを案内しました。

① 10:30 京王線調布駅前の神代

經由バス乗り場⑬。

② 11時に同公園前。

当日の参加者は6名(敬称略・山口、神田、坂口、柴田、一之瀬と孫少年)でした。うち、徒歩の二名は、それぞれ調布駅から30分、および小金井辺りから野川沿いに1.5時間同園へ着きました。

11時に入園し、梅雨明け直前で雨つぶはなかったものの曇天続きだったので花虫の喧騒はありませんでした。広さは0.7km四方(49ha、注1)、入って左に植物売店と軽食テラスが一つ(注2)、草地や植込みも多く、草木の繁みへと誘う散策路もあり、時おり撮影姿に会うていどの静けさ。園外へ出て再入園は可能。外の湿地を廻りましたが菖蒲などの群花は終わっていました。食事で蕎麦処へ座りましたが、期待した内容はなく値段も勧めできるものではありませんでした。再入して薔薇園と温室を巡りました。あづまや花壇に「薔薇 Ingrid Bergman(瑞典国)がありましたよ、感激!」の方もおり、薔薇 Empress Michiko(1966年に英国から

寄贈)もそこでの話題になりました。14時半に退園し無事終了しました。

(注1) 新宿御苑の面積は53ha。

(注2) 園内には手洗い、水場、あずま舎ベンチなどおおくの休憩場所がありますので昼食等を持参されるといいでしょう。



神代植物公園にて(20190721、同園まで徒歩で来た健脚は左の二方)



《広告欄》

空き家・留守宅・空き室の管理 お任せください

大切なお家を
建物のプロが
しっかり守ります。

お電話ください

(株)空き家のおまわりさん

〒386-0151 長野県上田市芳田 468-6

(株)幸和建設内

代表取締役 宮下 幸良

TEL 0268-36-3114

FAX 0268-36-3838

mail: info@kowa-kensetsu.jp

ふたつの詩

岩城まち歩き案内人の会

佐々木 裕三

(秋田県由利本荘市)



一、

み空に聳ゆる 高城山の

高きは我等の 久遠の希望

登らば雲井の 果てにも至らん

努めよ行手に 風さわぐとも

あゝ力あれ 我等の郷土

あなつかし 亀田

二、

流れて尽きせぬ 衣川の

清きは我等の 不断の誇

漕ぎなば海路の 未にも及ばん

努めよ行手に 波高くとも

あゝ光明あれ 我等の郷土

あゝかぐわし 亀田

三、

思いは遙けし 歴史の跡の

遠きは我等の 無限の生命

奮わば祖先の 栄えにも勝らん

努めよ行手に 事繁くとも

あゝ 誉あれ 我等の郷土

あゝ 美し 亀田

作曲は山田耕作、作詩は東京帝国大学名誉教授で文学博士の中村孝也。昭和九年八月二十六日、「同窓会(亀田小学校)総会を開催、小学校創立六十周年、同窓会三十周年記念事業として町民歌制定、本日披露」と亀小沿革誌に記載されている事を、元秋田県教育長であった丸山修一郎(故人)は「亀田町民歌の由来」の拙文に記してある。「町民が老若男女何処何処でも一緒に歌えるような歌が欲しいと念願していた・・・さて、制定となると日本一の町民歌をと野心がでてきた・・・日本一であるという自信と誇を持ち得るような町民歌」

とも。作詩の中村孝也博士は、徳川家康研究の歴史家であり、群馬県の出身である。当時の亀田町へは一度だけ来町し、同行した丸山修一郎は、「作詩の構想は、ほぼまとめられたご様子だった」と由来記に述べている。

私が中学生の時は、町民歌ではなく亀田中学校校歌として毎日歌った記憶がある。現在でも口遊むとなつかしさが湧いて来るし、亀田で育った自信と誇を感じられる。それは亀田の町に生きづいた香りのようなものがなつかしく沸き上る想いがするからである。「亀田を訪れたことのある人はよく亀田流石城下町だけあって何ともいわれぬ気品、風格を持った町だという・・・その度ごとに考えることは、町の風格とか、気品とかは一朝一夕に出来たものではない。小なりと言えども三百年も城下であったという歴史から来たのだらうと今、亀田に誇るべき何物もないと言ふ人があるかもしれないが、僕はそうは思わない」(丸山修一郎・会誌城門)。町並みの造りがどうのこうのではなく、その時代に生まれた人々の気概となつかしく思うのである。

そして、城下町亀田にはもうひとつの詩が残っている。

《広告欄》

有限会社 千曲美装

一般社団法人 優良リフォーム支援協会会員

代表取締役 宮下 毅

〒386-0015 長野県上田市常入 1-7-104

Tel 0268-23-7896、Fax 0268-23-7813

e-mail t_miyashita@chikumabiso.co.jp



悩む前に
相談して
良かったわ!!

アパート、マンションから一般住宅までリフォーム・メンテナンスの全てをお引き受けいたします。
お気軽にお声かけ願います。

「城門」

佐々木 忠郎

城門は無門です

しかも厳然としてあります

その戸締りは厳重です

城内には一歩も

入れてはなりません

また一歩も出てはなりません

でも開けっ放しであります

自由に入れます

また自由に出入れます

目をかがげている天鷲城を

一つ想像してみてください

この詩は、佐々木忠郎先生が、「城門の会」の開催にあたり巻頭詩としたものです。

「城門の会」の大きな目的は、誰でも参加することができ、自分の思考を発表し、意見を聞き、自らを研鑽することである。これは会頭である佐々木忠郎先生(故人)の意図するところであり、「城門は無門です・・・」とは、広い意味で地域の文化や歴史を知ることが厳然としてある城門を提唱した詩であると解釈している。

私の手元に「城門の会」会誌「城門」創刊号より九十号までの合本がある。発行では旧岩城町が大きく協力したことを伺うことができる。

二代会頭の佐々木孝一郎氏(故人)は合本を祝して次の様な記述がある。

『城門の会』もこの二十五年間、学習をしながら、或いは学習を通じて、いろいろな活動が続けてきたわけでありますから、文化的にも、社会的にも、誠に大きな意義をもった歩みであったと思います。

そして、その裏に、郷土の偉大な先覚者達が培った豊饒な土地に恵まれたこと、つまり優れた文化遺産を継承できたことも忘れてはならないと思います。

「城門は無門である・・・」は巻頭言であります。無門を探し求めて、多くの人が歩き続けてきた。ふと立止まって後を振り返ったら、そこには延々と続く一條の道が、美しく輝いていると見た。この本はその道のようなものであると思っています。

ただ、自然の復元力の怖さを忘れずに、常に歩き続けなければ、道は消失するでしょうし、耕し続けなければ忽ちにして荒無地と化してしまいます・・・」。

温故知新と言うべきでしょうか、先人達の意を尊敬し、継承するこ

との努力が私達に必要なであると感じられる。

そして、当時の岩城町長であった前川盛太郎氏は、祝辞に寄せて次の様に記す。

「無門の城門の内側に綴られた歴史の大冊・・・この合本を手にする人々にこの町の文化の源泉を知らしめ、読む人に故里の心を伝えてくれます。」

・・・論文あり、随想が載り、歴史が語られ、詩がうたわれて」の会二代目会頭であり、会の発展を導いた佐々木孝一郎、まちづくりの政治的な実践者であり、「小さなまちから大きな人を」とスローガンにあげ、生活体験を通じた創造教育をすすめた前川盛太郎氏、以上四名の先覚者を列記した。二つの詩は、城下町亀田の豊饒な風土を創ってきた支柱である。その元は、



亀田の町で歩く会の一行

《広告欄》

ゆっくり湯治してほしい温泉宿。かけ流しの温泉でココロも身体もほかほか。
心を込めた手作り料理も宿の自慢です。
無料送迎バスで、皆様のすてきな旅をお手伝いします。

信州鹿教湯温泉 水車のまわる宿

TEL 0268-44-2236

〒386-0323 長野県上田市鹿教湯温泉 1422

ろく めい そう
鹿鳴荘



岩崎みち子 (菅平) 川上年美 (菅平)
上田市前山の自然農法圃場にて

ふる里訪問でのひととき

「御田の方」の「都人^{みやこびと}」としての立居振舞に、城下の人々が憧れをいだき、尊敬し、人生の良き手本とみなしたことが、先覚者に流れる風格や品格を表わしたものと考えている。真田が残したものは大事にしたいと願っている。時代が変われば風土は変わる。人も変わる。消える日が近いかも知れない。

「編集部より」 本稿は31号に続き佐々木裕三様による稿の余韻「御田の方の亀田に残したもの」として2019年6月に寄稿いただきました。

九月からのたび重なる台風と大雨による災害にどう対応したものか・・・、と思いをめぐらせながら地元に関連をいたしました。「ぜひ出掛けてください」とのこと。予定通り出発することになりました。

その一日目

まずまずのお天気、紅葉には少々時期が早いようです。観光さなだのゆきむら夢工房に到着。初めてのそば打ちにドキドキするも、子供の頃に祖母や母に毎夜のように、そば、うどんを打ってもらっていたのを見ていたので、出来るかな？と思つて始めたのですが、見るとやるのとは大違い。で、苦戦しました。指南のお手伝いをいただきながらどうやら追いつき、つけ汁にきざみネギやかき揚げ天を合わせておいしく食べることが出来ました。

その二日目

早い朝食を済ませて8時10分に宿を発ち塩田の「うえだみどり大根」の畑へ着。「好きなおとりなされ」にのせられて大根ぬきを体験しお土産にたくさんいただきました。昔食べていた懐かしい大根です。バスは菅平に向かい40分ほどで菅平高原アリーナに到着。そこはアスリート対応の素晴らしい設備でした。

菅平高原自然館の展示館を観たあと、立て替えられてから40数年

経っている菅平小、中学校に到着しました。

中学校教頭松田幸一先生がお出



菅平小中学校前庭にて (最左側は中学教頭松田幸一先生) 菅平小中学校 (2019年10月28日)

《広告欄》

東京真田町の会

顧問 三井芳郎

〒386-2203 長野県上田市真田町傍陽 11510

☎ 0268-73-2616

迎えくださって30分ほど校内を見させていただきました。ここに学ぶ生徒は小52名、中21名だそうで、私たち50年前の半分ほどです。小学校の構内を見学していると、休み時間に子供たちの元気なあいさつ「こんにちは」「こんにちは」の声で迎えられ笑顔が清々しく、とっても気持ちよく感動しました。廊下や教室のそうじも行届きチリ一つ無くきれいでした。昔から訪問者の多い学校でしたので、あいさつとそうじにはとても気をつけていたと思います。それが今も受けつがれていたのです。休み時間にも掃除をしている生徒さんを見かけました。先生方のご指導の賜でしょう。

ありがとうございます。とても幸福な気持ちと元気をいただいて帰路につきました。

上田市特産地大根「うえだみどり大根」について

うえだみどり大根生産者組合

副組合長 吉田 範夫

「うえだみどり大根の誕生と生産者組合の発足について」

戦前、中国へ開拓団として赴任した上小地区出身者が大陸から持ち帰った種が由来と伝えられる大

根です。栽培を始めた地域としては諸説ありますが、真田町の出身者が種子を持ち帰り栽培を始めた、という説もあります。上田地域では、その当時から「支那大根」の名前で栽培され、また高い晴天率と少雨、高い標高がもたらす昼夜の寒暖差など、良質な農作物が栽培できる気候や土地環境が生産地として適しており、この地に根付き、長年にわたり自家用として栽培され、その美しい緑色から主に大根おろしとして地元で愛されてきました。



しかし、個々の農家で市場流通させるほどの規模では栽培されず、自家用として自由に栽培がされてきた経緯から、他種の大根との交雑をしてしまうなど、徐々に形状の個体差が大きくなり、形状の安定しないものになっていきました。また、漬物など保存用の冬大根として栽培は継続されてきたものの、農家数の減少や食文化の変化に伴い、この大根の存在感が徐々に薄

まっていた。まっていた。

そのような状況の中、上田出身者の集まりである「東京上田会」の皆様から、上田を代表するような野菜はないかとのご提案をいただいたことをきっかけに、「JA信州うえだ」が長く地元で愛されてきたこの大根を取り上げ、「うえだみどり大根」と命名しました。そして、環境にやさしい安心・安全な農業をめざし、その実現のために様々な取り組みをしている地元NPO法人「地域循環ネットワーク」と、その取組みと農法に賛同をした生産者数十名がグループを組織し、「うえだみどり大根」を全国に広めようと、平成17年「うえだみどり大根プロジェクト」として普及の取り組みが始まりました。

それと同時に、先述のとおり交雑がすすみ中々同じ形状のものが出来ないこの生産者泣かせの大根の品質を固定化させるため、JAや地元種苗会社等関係団体と連携し、上田市農業バイオセンターを活用し、ハウス内の他種と隔離された環境で種子栽培及び採種をスタートさせました。ここで採種されたものを生産者が毎年播種と栽培を行い、外観形状や肌の状態、空洞の有無等、形状の良いものを数本を選び、さらにそこから特に優れたものを選抜した大根を種子栽培の母本として、翌年の生産につ

《広告欄》

東京真田町の会
顧問 塩沢和政
(大日向出身)

〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田1074-37
☎ 047-450-3348



なげるといふ努力をしてきました。

このような品質の安定化の取組みや、普及拡大の取組みをすすめ、平成24年10月には「うえだみどり大根生産者組合」が発足するまでに至りました。豊殿地区・室賀地区・塩田地区が中心で、丸子・武石・真田等が加わり、地域の直売所のみならず、毎年県内大手量販店への定期的な出荷販売を行うとともに、県外量販店及び小売店への適宜の出荷、首都圏や災害時応援協定都市である沼津市でのイベント出店、地元での収穫祭開催等、活動の規模を広げ、全国への普及活動をすすめてきました。また漬物や切干大根などの加工品を開発するとともに、一般家庭でもより多くの用途で楽しんでいただくため、市内で活動する料理研究家の方のお力添えをいただき、様々なレシピの提案も行っています。

このような活動の甲斐もあり、ここ数年では毎年全国放送のテレビ番組で取り上げられるなど、知名度は徐々に高まっています。組合員も令和元年9月時点で40名ほどの規模に拡大し、さらなる普及拡大に向けて活動しています。

「うえだみどり大根」の栽培方法について

生産者の拡大がすすむとともに、上田市での生産地は多様な環境を

擁するようになりました。したがって、土壌などの環境が異なっても一定の品質を保持できるよう、生産者組合では生産工程の標準化を図り、均一な製品を提供するためのシステム構築を進めています。土づくりの基本から同じ作り方とし、上田市の上水道濾過材にキノコ菌その他を混合、中温発酵・熟成させた土壌改良剤を一定量使用、肥料も基本的に同じ銘柄とし、基本的には無農薬、その年の状況により減農薬で栽培し、収量・味・外觀を同じものとして、購入して頂く皆さんに安心・安全・おいしい大根を届けることを心掛けています。また同じ手法をとることだけでなく、栽培地は先述のとおり各地域が散在しているため、その地域にあった方法を行うことで、品質を一定のものにできるよう工夫をしています。例えば生産者組合の共同圃場がある前山では、畝を立てず、平地に直接播種を行っています。まず、播種の時期は、9月1日の前後1週間位が適期ですが、標高が高く気温の比較的低いところは8月下旬に播種を行うなどしています。

- 1 生で美味しい・・・サラダ・スティック・おろし
- 2 揚げて美味しい・・・てんぷら・かき揚げ
- 3 焼いて美味しい・・・

「うえだみどり大根」の美味しい食べ方について
使用方法としては、元来「おろし大根」と呼ばれるほど、大根おろしが圧倒的に多く、次に多いのが漬物です。この数年間で、食べ方が色々研究され、おおくのレシピが提案、紹介されました。

が太陽の光をいっぱい浴びて、色鮮やかな緑色を有し、辛味を多少持ちつつも、味の濃い、甘みの豊かな大根となります。



澄んだ大気と緑豊かな山麓に育つうえだみどり大根

《広告欄》

現代舞踊内海流 舞踊教室

東京真田町の会顧問

中島正江
(内海鉄政望)

〒157-0067 東京都世田谷区喜多見3-22-18-103
☎ 03-6411-0703

東京真田町の会
北本市都道府県人連合会
長野県人会

会長 金子誠
(田中出身)

〒364-0035 埼玉県北本市西高尾 4-156
☎ 048-591-4728

大根ステーキ

漬物・・・

小糠漬・粕漬け・ザラメ漬け

5 切干大根・・・

煮物、酢の物など

6 その他・・・

きんぴら、押し寿司

このように一般の白い大根では想像できないような、多様なレシピが生み出され、様々な利用方法を提案しています。生食ではほんのり甘く、皮目は特有の辛みがあり、緻密で歯ごたえが良いですが、加熱すると甘みがより強くなり、ほくほくとした食感になります。

是非皆様の故郷である上田地域にお越しの際には、この特徴ある特産地大根をお召し上りいただき、故郷の味を感じていただければ有難く存じます。

謝辞 本稿の掲載に際しては、上田市役所農林部農産物マーケティング推進室土屋大地様からのご提案と、ご執筆者の紹介をいただいたものです。土屋様、生産者組合の皆様、および吉田様に厚く御礼を申しあげます。

惨禍にあるふるさとへ

義援の手を

東京真田町の会

会長 金子 誠

事務局長 神田幸雄

猛威をふるった19号台風はふるさと真田にもこれまでにない惨禍をもたらしました。伝え報じられたこれらの惨状を見るにつけ、ふるさとの皆様に早く復興の笑えみが戻るよう、本会は微力ながら義援の礎をおきました。

そこで、事務局は10月29日に会員の皆様へお願い状(以下、お願い状)を起案し、次の三点を作成しました。

〃〃〃〃〃〃〃

一 金子誠会長から会員の皆さまへお願い状

「強大台風19号の襲来、神川の大氾濫と風害被害多大に伴い義援金をお願い」

二 惨禍を伝えるつぎの二記事

(1) 台風19号による記録的な大雨は各所に甚大な被害をもたらした(報告文)

(2) 台風19号で真田町でも大きな被害(写真)

三 郵便局の振込用紙を一葉

〃〃〃〃〃〃〃

二の(1)、および(2)では真田町選出の市議会議員方からの報告と写真等を使わせて頂きました。

発送の作業を11月9日、14時から九段中央法律事務所のご厚意により会議室をお借りして行いました。

つぎの「各位」で始まるお願い状に、会長から皆様へご案内した義

援の主旨を述べております。

〃〃〃〃〃〃〃

令和元年11月9日

各位

東京真田町の会
会長 金子 誠

強大台風19号の襲来、神川の大氾濫と風害被害多大に伴い義援金をお願い

10月12日夜から暴風域に入り記録的な大雨が13日未明にかけて東日本各地を襲った台風19号で千曲川が大氾濫を起こし、長野市での堤防決壊で地域一帯が大きな被害をもたらしています。

私たちのふるさと真田町でも神川の水位上昇に加え菅平ダムの放流やむを得ない状況と重なり氾濫危険水位突破により、真田地域自治センター前の県道長野真田線の「四日市橋」の護岸が崩れ危険度が高いため通行止めとなり、また神川沿いの上小森林組合事務所と真田地域自治センター駐車場の護岸が大きく崩れ事務所は傾き応急措置が必要とされている状況であるほか、神川支流の洪沢川沿いで家屋全壊1件の他に床上浸水1・床下浸水8件の被害が発生、風害による被害が住宅屋根58件、農産物ではリンゴの落下2割の被害が出ています。

上田地域では、別所線の上田駅

《広告欄》

東京真田町の会

副会長 深 町 共 榮

(田中出身)

〒366-0052 埼玉県深谷市上柴町西 5-7-82
〒386-2203 長野県上田市真田町傍陽 825-7
☎090-7225-6491

〃城下駅の千曲川に架る赤い橋梁が、左岸堤防一部崩落により千曲川に崩れ落ちたほか、国分地区は千曲川の左岸堤防が崩壊し流域一帯被害が出ています。

以上のように真田、上田地域に大きな爪痕を残しました。心に残るふるさと真田町がこのような惨状に対し東京真田町の会は、微力ですが支援活動に力を入れることにしました。

全会員の皆様ご協力をお願いいたします。

※支援活動を次の要領で実施します。

一 全会員に協力要請の文書を出

二 当会独自の義援金活動です。
義援金は一口2,000円以上とする。

同封の振り込み用紙をご利用ください。

三 義援金募集の期限は年末までとし、集金額を上田市に提出する。

集金額を、3月31日発行の「しらかば通信」で報告する。

ふるさと義援金に賛同 された方々への御礼

東京真田町の会

会長 金子 誠
事務局長 神田幸雄
会計理事 坂口典和

令和元年十一月九日付、会長金子誠は趣意書をもって、皆様にご協力を仰ぎました。

このご案内の直後から、多くの皆様からご意志を頂いております。目下、日本ダボス32号の編集にかかっている折、同月二十日まで振込みを確認できた方々には、ご芳名に加えてこの期間の入金総額を添え、御礼「その一」としてここに速報することにしました。

今後、ご協力をお願いしている本年十二月までのあいだ、適宜、入金額および累計をまとめ、これに御礼状を添えてご芳名方への挨拶にかえさせていただくこととしました。

この章末には、会長から皆様への御礼状を掲げております。

御礼「その一」

一 十一月十日から同月二十日の間に皆様から当口座への振込みが確認されたもの

二 この期間の総額

402000円

三 ご芳名(四十五名、敬称略)

内海章緒、柳沢郁政、飯島慶三郎、長田ムネ子、萩原清人、宮下毅士、堀内保芳、塩澤重男、笹沢ケサム、角田和美、関 裕子、柳沢幸夫、斉藤美枝子、柳沢弘敏、板垣正子、山寄静次、横沢由明、海瀬弘司、塚田健次、塚田加代子、川上年美、小祝ふじ枝、中澤欣勇、椎名巳津男、白井 彰、高畑悟朗、荒木廣之、八木五郎、岩崎 弘、清水征夫、堀内 幸、上ノ山勝信、飯嶋まさい、小林清吾、大久保あきこ、杉村房枝、和田美木子、佐藤昌江、藤井やすい、小林正子、堀内 勝、堀内博典、堀内寿美、丸山廣義、吉川栄光

☆ ☆ ☆
令和元年十一月・十二月吉日

義援金納入者各位

東京真田町の会
会長 金子 誠

義援金納入の御礼

皆様には、常日頃から当会の運営にご理解とご協力を賜り、改めて厚く御礼申し上げます。

過日、「強大台風19号の襲来、神川の大氾濫と風害被害多大に伴い義援金をお願い」を以って支援活動のご案内を申し上げたところ、愛する真田、上田地域に心に残るふるさとの惨状に対し会員皆様の心温まる貴重な「義援金」を納入していただきました。

ここに厚く御礼申し上げます。

今後とも当会へのご支援とご協力をお願い申し上げます。

末筆ながら会員皆様のご健勝とご多幸を申し上げます、まずは書中にて御礼申し上げます。

総会の返信欄へ会員の皆様から寄せられた近況

(敬称略・旧姓・出身区)

1 飯島慶三郎(本原)

元気にやっています。皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

2 一之瀬和夫(大日向)

2018夏、菅平―米子瀑布まで往復を計画するも12時間かかるので諦め。かわりに牧場発6時半―根子岳―四阿山―小四阿―牧場(休

憩含6h)でごまかしました。帰途ダボスの丘で^{no31}の表紙写真撮り終えるや激雷、ビニール包カメラ以外は水の恵み。下界は雨なくそのトラックで緑中の信綱寺黒門を、横尾花壇サルビア婦人の姿を納めて中組へ着いたのは16時。これら盛夏の絵は^{no31}の表紙と本文に掲。

3 岩井泰子(萩原・本原)

役員の皆様いつもありがとうございます。加齢と共に行動範囲が狭くなり今日一日が元気です。故郷を想う気持ちには色褪せることなくいつも心の中にあります。皆様にお会い出来ます事を楽しみに出席させていただきます。

4 岩崎 弘(本原)

ご盛会をお祈りいたします。

5 岩崎みち子(正木・菅平)

4月14、15日にクラス会があり別所温泉へ行ってきました。多数の方が出席され楽しく過ごしてまいりました。真田町の会も多数の方が出席いただけたとうれしいですね。お世話になります。

6 上ノ山勝信(堀内・三島平)

幹事さん御苦勞様です。当日は家族旅行の予定を入れてしまいましたので失礼します。会のご発展をお祈りします。

7 内海宏光(大庭)

一 烏帽子岳夜雪と雨降り冷えて

春のお彼岸に父・義父母の墓参りに真田に帰りました。夫の兄がいつでも待っていてくれる。いつでも故郷にかえれる幸せを感じています。

37 塚田 靖(菅平)

他に予定があり欠席します。

38 中沢欣勇(下横道)

大変遅くなり申し訳ございません。この一年間も相変わらず元気です。ごしてまいりました。皆様にお会いできる事、大変楽しみにして居ります。

39 中島正江(関谷・戸沢)

ふるさと訪問の折りにけがをしてしまい大変お世話になりました。有難う御座居ました。今は大変良くなり、ひよこひよこ歩いていきます。就いた仕事は介護施設で食事介護の仕事についています。本当にお世話になりました。

40 中村洋子(木下・田中)

役員の皆様、いつも有がとう御座居ます。おかげで、なつかしい皆様に会う事ができます。楽しみにしています。

41 野村勝太郎(大日向)

毎年申し訳ありません。少年野球の親子大会が又重なり(小生まだ部長をしていますので)参加できません。皆様に宜しく願います。元気は元気です……

42 橋詰吉万雄(中組)

会の運営についてはいつもお世

話様です。年々体調もよくなく欠席です。会の発展を祈ります。

43 平田金子(橋詰・岡保)

役員の皆様いつもお世話になります。今年も皆様にお逢いできる事を楽しみにしております。当日はよろしく願います。

44 深町共榮(山岸・田中)

高齢化と共に本会のメンバーが減少しております。さなだ町地区にお住いの皆様において、関東方面にお知合いの方がおられましたら、東京真田町の会に入会していただけるよう、お声がけをお願い致します。

45 堀内 幸(下横道)

令和第一回総会・懇親会となります。幹事役員の皆様ご苦勞様です。唄は元気に「パラダイス東京」を合唱しましょう。

46 堀内照美(上横道)

懇親会の時に唄を歌わせて頂ければ幸いです。プロ歌手のさの美佳さんとデュエットでCDを全国発売した「札幌：再び」です。宜しくお願いします。

47 堀内敏夫(中横道)

職場に恵まれ古希を迎えても勤務が出来、月に一、二回帰省の予定で畑に少しばかりの野菜を作り、夏には草と格闘して、四季折々自然豊かな古里に帰ることを楽しみにしています。

48 堀内敏文(下横道)

連絡ありがとうございます。ほかの行事と重複するため欠席致します。盛会を祈願しています。

49 堀内寅次(中横道)

年齢88を迎えよとしております。脚が弱り歩行が困難です。欠席させていただきます。御盛会をお祈りします。

50 堀内秀夫(下横道)

入退院のくりかえしなどで一人での遠出はできなくなりました。今年より医療費が一割負担となりました。元気に過ごせるよう町の体操に参加しています。

51 堀内寿美(上横道)

先日はお電話を頂きありがとうございます。遅くなつてしまします。色々とご準備をご苦勞様です。皆様にお会いして楽しい話ができることがうれしいです。

52 堀内 福(下横道)

元気です！

53 牧内泰男(萩)

楽しみにしております。

54 丸山廣義(曲尾)

元気で生活しています。が所用のため欠席いたします。皆様の御健康と御盛会をお祈りします。

55 三井芳郎(大庭)

御無沙汰して居ります。野山の美しいふる里で散策したり温泉に入ったり元気でおります。皆様によろしくお伝えください。

56 宮下毅士(真田)

入会以来、総会に参加したことがありませんが、しらかば通信などなつかしく拝読しております。昨年、姉の葬儀で上田に行った折、真田の山家神社のほうに行ってお墓参りもして来しました。なつかしかったです！！

57 宮本 優(大日向)

平穩無事で何かと多忙に暮らしております。いつも欠席で申し訳ないです。ご盛会をお祈りいたします。

58 武捨衛人(中組)

白内障の手術で視力が回復し、私製ソフトでナンバープレスの難問に取り組んでいます。3000〜4000の難問に、まだ解けない問題に出会っていません。足腰が年相応に弱っています。久しぶりの総会を楽しみにしております。役員の皆様ご苦勞様です。

59 八木五郎(中横道)

大好きなアルプス(春夏)登つてない岳多々あり、涙金の年金では大不足(用具、交通、宿泊代)稼ぎに有料老人ホーム、パート(月20日)12年目。ここ十数年体重全く変わらず腹ポッコリも何んとか元気。有りがたく幸せです。久しぶりの出席、何んか懐かしいです。カラオケ。パターンですが、千昌夫の望郷酒場、夕焼雲。

60 柳沢郁政(戸沢)

六月には菱野温泉で中学同級会

に、千曲川の「つけば小屋」で高校同級会に行きます。姉三人が上田で別々の介護施設におり、年に二回は訪ねています。いい郷里があつて、元気だからできることだと思っています。

61 柳澤喜三郎(萩)

腰、脚のいたみが強く両杖に歩行の有様で今年も欠席です。御盛會を祈り申し上げます。

62 柳沢弘敏(萩)

いつもお世話様です。夏野菜の植付準備など、元気にしています。

63 山口元彦(横沢)

珍しいアトラクション、楽しみです。多勢の方が出席してくれることを念願しております。

64 若林正春(大洞)

ご案内頂きありがとうございます。残念ですが出席できません。5年前に脑梗塞を病み、杖の世話になる生活をしています。皆様にお会いしたいと思っておりますが、欠席致します。皆様によりしく！

懐かしき学び舎の

なかまとのひと時

(一) 中学同級会に

上田駅から別所駅まで：

一之瀬和夫(大日向)
傘さして2時間半のみのり。

二年ぶりに集まる真田中五期二組第三回へ参加するのに初めてこの道草をくった。

ときは2019年7月7日(日)かわせみの宿泊8日。

待った7日の朝は、相模原市の住家を5時に出て東京発あさま6:58、上田への着は8:30でした。上田の天候がご機嫌の時にはきまつて太郎山頂へ散歩するだに。

16時の宿入りまで7時間はあるので、駅から山頂まで、虚空蔵山を経て和合城跡をくだり坂城の鼠宿をぬけ、坂城テクノ駅まで5時間かけて、そのあとしな鉄で上田駅へ戻るつもりでした。ところが降りた上田の空はどんよりで、中腹あたりの上は霧に咽せていました。そんなことで、計画を外して別所まで歩くことにしただに。

観光案内所で「別所温泉まで歩きたいが、道すじやかかる時間を教えてください」と訊ねるに、案内嬢は(これぞ正答なりと)笑顔で「いい電車がありますの・・」とおっしゃる。「そうー、神奈川県から来たのですが、迷わずに行ける歩道を教えてくださいな」と言葉を変えてお願いしたら、絵図を三つ広げて下さった。一つは食通の蕎麦店絵図、二つ目は別所・塩田平辺りの道路地図、三つ目は上田市全図とその周辺でした。これらを見て比べて、肝心なところに印をつけ路を鉛筆でなぞって、どうやら「これは行ける」道すじになりました。これらをつき合わせて複写し

「だいたい10kmですわね?・・」と心配そう。「じゃ、2時間半ぐらいかかりますかね!」と、こんな調子でかれこれ30分ぐらいで道が決まりました。いやーまったく懇切に應對くださった、さすが市の顔ですわウレシ・・。

あつく礼して、彼女のくれた道理にそつて出掛かったところ、外では傘縁を垂れる水が・・。

上田駅南口(9:46)から千曲堰堤へ入り、トラス橋梁を左に見て電車レールをまたいで上田橋(すぎた辺りで傘を捧げ)――R143宮島(雨がたが怪しい雲)――R15下小島――R177舞田――別所温泉駅(12:20)へ着きました(括弧内は歩いた時刻)。

歩みの間にも初夏のいろいろな風景がありました。休日だったせいか宮島まで行き来る人はなく、お店の表トタンは赤く錆び。宮島で右へ折れて下小島に着き、そのまま直進すれば生島足島神社や無言館方面になる。ここで右折して別所街道に入り舞田に向かう。何年ものあいだ耕人を待ち続けたように草ボウクの畦(うね)や畔(あぜ)がある。稲株が残ったままとか所どころ浮草のなかに稲苗のたつた田んぼもあつて・・。

そういえば、千曲高校へ通っていたころ、塩田と御岳堂の友二人と三輪トラックでこの辺や須川湖

辺りを交替で運転して廻ったことがあった。そんなとき、塩田の一人が「歩けば溜池にあたるのが塩田だ」、なんて言っていたことを思い出した。地図を見ると確かにその大小がいつぱいあった。

ようやく右脇に濁った川らしきものが見えた。

上田橋あたりから見たときは、雲がかかっていた別所の山姿が前方で静かに待っていました。ようやく電鉄の踏切を過ぎ、ややのぼり坂をかなり進んだところにひっそりと別所駅があり、そこには電車待ちが二人。

観音さまへ行く途中に高くて急な階段があったナーと思いだした。それは中学の頃で、大日向から家族で正月のお詣りにきたときのことだ。体が小さかったので石段も高く、横にあった杉の幹もデッカク見えたのでしょう。

北向観音への道を入らず川沿いに奥の湯街へ進み、また戻って足湯場辺りでフラフラしておったところ、突然「アッー、イタタタ右・・」と脚の脛にツリがきた。さしさわりのない平道ばかりを踏まされた脚がいぼつたか、二分ばかりの間、酷く痛い目をした。これが治まった後、せつかく来たのだからと、足湯が空くのを待ち、ツリ騙しに膝折りし5分ばかり浸しました。足湯場からかわせみの宿へは10

分ほど、着いたのは14:40でした。こんなことで、上田駅から別所までのみちのりは、上田から下大日向までのそれに大体同じでした。4時ごろからアラセレブを囲んで二年振りの前祝いです。神畑の松井農園メロン、赤井の若林ブルベリー・・・(多雨で成果が遅れていて50粒ほどでしたが)、丹精こめた中沢庭の梅漬、などに褒め冗談がついてビールで乾杯です。「5年前は元氣だった〇〇はどうした」、「△△ちゃん家は急な不幸で・・・」、いい話では「まー、ユーちゃん60年もの間どこに隠れてた・・・」、など他愛もないことに嬌声や叫びが錯綜して、前段の笑い成績はだいたい合格点でした。さて、宴のはじめに参加者12名の記念撮影、つぎに早逝の仲間へ黙祷、幹事の挨拶もそこそこに、それぞれがまわりで華を咲かせて、



別所線の踏切 (2019年7月7日)

夕ご飯の料理にも箸がまわらずじまいでした(料理多すぎ? たぶん少食になっちゃったのね!)。締めくくりは校歌「美しきかなわが郷は・・・」斉唱と、ノリノリのうちに閉宴しました。

二次会も沸きあがって、中学の課外「渋沢植林」行きや、台風でなくなつた四日市橋と、ほとんど崩れ落ちた道路の情景などで盛りあがりしました。下大日向の支流和熊川から寄せる水流が本流を寄せて道を飲み込んだこと、おまけに横沢裏の橋が跡かたもなくなつたりしてバスは来れなかつた、ことなど。「大日向と渋沢は学校へも来ないで、この3日間何しておつた!」と、いつも無然としている松井先生から「ものゝすゝく怒られた・・・」など、二次会も大騒ぎでした。

夕べの興奮が尾をひいて、朝食もよく消化できず、お宿には申し訳ありませんでした。「来年はもつと仲間を連れてきますから!」と、雄叫びをあげる者。別れ際、同級会第一回目の幹事をやった彼女が「もうお願いだから、これからもシッカリ続けてよね・・・」とナミダながら?に叫んでいた。宿の玄関口で私に声をかけて下さつたお宿の方は「裏山へ廻れば独鈷山への道がありますが・・・」と教えてくださった。「次のときお世話になります」と御礼して、夏ちゃん

の車でおいとましました。上田駅で案内所に寄り、昨日世話になつた案内嬢へ礼の一言を託して発ちました。車中、東海村へ帰るTI氏と大宮駅まで話題尽きず。

(二) クラス会に参加して

柴田小夜子(菅平)

年に一度のクラス会、もう何年になるだろうか?(菅平小昭33年卒・菅平中昭36年卒)小中とも一組しかありませんでしたから、同期会がそのまま同級会になつていきます、若い時にはなかなか時間も取れずに、出席も難しかつたのですが、三十年前ぐらいからは、なるべく参加するようにしている。

お互いに何が起こつてもおかしくない年齢になり、これから何回会うことができるのか・・・、なんて考えてしまつた。

今年は四月十四、十五日で別所温泉のつる屋さんでした。参加者はクラスの半数で15名(男性4名、女性11名)・・・、幼なじみは良いですね。いつもあつた瞬間に中学時代にタイムスリップしてしまう。半世紀以上たつているのに、他では体験できない感覚です。

上田駅に降り近くの昔なつかしいラーメン屋さん(行列していましたが)で昼食をすませ友人の車で塩田の「真言宗、智山派、山号は獨股山または独鈷山」前山寺を参拝

《広告欄》



代行 ゆきむら

長野県公安委員会認定第 273 号：代行保険完備

代表 飯島 嘉夫

TEL 090-1504-1196

〒386-2202 上田市真田町本原 2749

営業時間 20:00~3:00

しおいしいお茶をいただいた後、別所温泉に向かいました。夕食は学生時代の延長の宴会そのもの。お互いに昔の思い出話、つぎることはありません。翌朝は友人のマイクローバスで佐久平の見物、フラワーパークで水仙の花を楽しみ「慧日山(えにちさん)、修学院津金寺」に詣りカタクリの花や二輪草を探索した後、佐久の五稜郭跡を見学、盛り沢山の行程でほんとうに楽しい旅でした。東京組は佐久平駅より帰路に：。来年も元氣で皆に会うことが出来ます様に、今から体力作りに頑張ろう・・・。

平成30年度決算報告書

平成30年4月1日から平成31年3月31日

収入の部			支出の部		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
通常年会費	220,000	241,500	総会親睦会費	540,000	396,982
総会親睦会費	400,000	345,000	会報発行費	420,000	446,866
上田市補助金	300,000	300,000	事業費	120,000	84,295
広 告	160,000	155,000	事務通信費	90,000	24,438
寄 付 金等	15,000	15,500	印 刷 費	45,000	7,400
利息等雑収入	3	3	会 議 費	110,000	86,085
			渉 外 費	70,000	42,160
			交 通 費	80,000	51,024
			雑費・手数料	70,000	24,494
			予 備 費	49,985	3
当期収入合計	1,095,003	1,057,003	当期支出合計	1,594,985	1,163,747
前年度繰越金	469,982	469,982	次期繰越額		363,241
合 計	1,564,985	1,526,985	合 計	1,594,985	1,526,988

上記のとおり収支決算報告いたします。平成31年3月31日
 上記の報告書は適正かつ真実であるものと認めます。

会計 坂口典和 ㊞
 監事 深町共榮 ㊞
 監事 荻原啓治 ㊞

令和元年度事業計画

- ①第32回総会および懇親会の開催 により会員相互の親睦を図る行事の実施
 令和元年5月19日(日)
 ②会報「日本ダボス」第32号の発行
 ③広報誌「しらかば通信」第24号の発行
 ④ホームページの運営
 ⑤会員旅行会・ゴルフ会・特別企画四季めぐり
 ⑥上田市との交流促進のため、ふるさと訪問、
 ふるさとの特産品の宅配協力、各種文化
 交流、およびスポーツ行事等の実施と参加
 ⑦その他

令和元年度収支予算

平成31年4月1日から令和2年3月31日

東京真田町の会役員名簿

令和元年12月1日現在

収入の部		支出の部		職 名	氏 名
科 目	金 額	科 目	金 額	会 長	金子 誠
通常年会費	220,000	総会親睦会費	400,000	副会長	深町共榮
総会親睦会費	350,000	会報発行費	420,000		柴田小夜子
上田市補助金	300,000	事業費	120,000	理 事	監 事 荻原啓治
広 告	160,000	事務通信費	45,000		事務局長 神田幸雄
寄 付 金等	15,000	印 刷 費	45,000		会計理事 坂口典和
利息等雑収入	3	会 議 費	100,000		編集長 一之瀬和夫
前年度繰越金	363,241	渉 外 費	70,000		
		交 通 費	90,000	顧問	
		雑費・手数料	70,000		小林孝雄 三井芳郎
		予備費	48,244		塩沢和政 中島正江
収 入 合 計	1,408,244	支 出 合 計	1,408,244		山口元彦

～ 会 員 消 息 ～ (平成 30 年 11 月～令和元年 10 月、敬称略)

- ＜ 住 所 変 更 (敬称略) ＞ 該当者はありません。
 ＜ 退 会 (敬称略) ＞ 長い間、本会の運営にご協力下さりありがとうございました。
 くれぐれも健康にご留意ください。 齊藤勇一 上原澄子 滝沢 勲 清水清晴 斉藤紀久子
 桑田博章 青木輝夫 清水貞夫 鳴澤夏雄
 ＜ 逝 去 ＞ この欄は掲載しません。

次回総会の予告

2020年度の第三十三回総会・懇親会は5月17日(日)、私学会館アルカディア市ヶ谷で開催する予定です。
 この開催案内及び詳細を4月発行の「しらかば通信 24号」でお知らせします。多くの皆様にご出席いただけますよう、お待ち申し上げております。

年会費払込には本会専用の「払込取扱票」で郵便局にて払込下さい

この払込取扱票は右記しらかば通信に同封されます。同票には「通常払込料金加入者負担」との印刷があり、本会が払込料金を負担しています。

当会の年会費は、平成27年度までは一千円、平成28年度からは一千五百円となりました。したがって、

①過年度分を未納の方が、同票でお支払いされる場合、年度と金額を必ずご記入下さるようお願いします。

②2020年度の年会費一千五百円の払込みには同票をお使い下さい。

広告御礼

本誌第32号の発行にあたり広告をお願いしましたところ、多くの皆様からご協力を頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

新会員ご紹介のお願い

常日ごろ、会員の皆様には会の運営についてご協力と御助言をいただき御礼を申し上げます。

ふるさとを離れて幾数十年、志を同じくした同郷の私たちは、互いに励まし助け合うことを通して多くの困難や危機をのり越え、今日まで共に歩んでまいりました。真田町との交流をめざし、親交を深めることを目的に誕生した東京真田町の会(1988年9月設立)も、次年度に32年の歴史を創ります。

新元号とともに、私たちの昭和も遠くなっていますが、これまでの先輩役員がたのご努力、皆様のご協力を礎に、さらには真田町ならびに上田市のご支援のもと、一歩前進の路を探りつつ運営してまいります。

本会がさらに新しい何かを探し続けるために、何にもまして重要なことは会員数が増えることにあります。皆様の友人、知人で本会に推薦できる方がおいでしたら、会長または役員までご連絡いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

編集後記

はじめに、本誌にご寄稿いただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。

今秋、10月に来襲した二つの台風18号、19号で惨禍にみまわれた方々には謹んでお見舞いを申し上げます。19号台風の豪雨禍で被災したふるさとへ会員皆様からの義援を以ってお見舞いしております。

ふるさと情報をいくつか

(一) 真田地域自治センター異動

同長山宮正久様と地域振興課春原恵美子様は2019年3月31日を以って、異動となりました。

お二人には、本会がこれまでにいただいたご厚情に厚く御礼を申し上げます。

同年4月1日、センター長に山崎完爾様が着任されました。

よろしく願います。

(二) 別所線の早い復旧を願う

〈地域旅客輸送企業が応援に駆けつけ〉

19号台風による不通区間(上田駅と城下駅間)は11月16日(土)からバスによる代行輸送が、城下駅から下之郷駅間では電車運行が再開されました。

(三) 真田町の小中学校はいま

記憶の彼方においてきた山や川、そのふるさと旅では小中学校を訪ね「仰げば尊し・」で遊び親しんだ校舎、ともだちや恩師と別れたその情景に浸りました。

本号の表紙には真田中学旧校舎を、36ページには、それまで40年間の風雪に耐えてきた舎の趣を紹介しています。



祝 東京真田町の会

— 会報 32 号 —



第 32 回開催、アルカディア市ヶ谷穂高の間に一堂に会した出席者



くらしによろこび 創りませんか
信州うえだ農業協同組合
代表理事組合長 眞 島 実

〒386-8668 長野県上田市大手2丁目7番10号 TEL 0268-25-7800 FAX 0268-25-7820

JA 信州うえだ 女性部真田支会

〒386-2201
長野県上田市真田町長 3893-1
TEL 0268-72-2300
FAX 0268-72-4032



真田中学の百葉通り中庭、通路の
左には百葉箱 1997 年 08 月 10 日

日 本 ダ ボ ス 令和元年 12 月 21 日 発行
発 行 者 東京真田町の会 会長 金子 誠
発行者住所 〒364-0035 埼玉県北本市西高尾 4-156, Tel & Fax 048-591-4728
編 集 一之瀬和夫 (編集長)、深町共榮
印 刷 上田市住吉：精巧堂 (株) アオヤギ印刷